

## 西洋中世哲学史 第1回 (2019.06.11. 火)

1 「今まで、何語を学びましたか、または、学習中ですか」に対する回答は、以下の通り。

フランス語 (2名), スペイン語 (1名), 英語 (15名),  
 ドイツ語 (11名), 中国語 (5名), (古代)ギリシア語 (1名),  
 ラテン語 (5名), サンスクリット (2名), パーリ語 (1名),  
 チベット語 (4名), アラビア語 (1名), ヘブライ語 (1名),  
 ロシア語 (1名), 韓国語 (4名), 日本語 (4名)

日本語と英語は回答しなかった人が多数いると思われるので、実際には出席者数と一致すると  
 5 思われます。

この授業では、西洋古典語(ギリシア語・ラテン語)と西洋近代語(イタリア語, フランス語, ドイツ語, 英語など)の文献に言及することが多くなるかもしれませんが、原則として、原典とその日本語訳を併記して示しますので、原典の部分を読めなくても心配はいりません。安心して下さい。

10 2 「何故、この授業を受講するのか」に対する回答は、以下の通り(1人で複数回答あり)。

専門の授業だから (1名),

今まで哲学に触れたことがないので受講してみようと思って (1名),

興味があったから (5名),

教職の単位として必要 (2名),

15 古代哲学史の続きとして (2名),

イスラームの思想を学びたいから (1名),

自分の専門との関係で中世哲学が参考になるかと思って (1名),

キリスト教に興味があったので (1名),

神学を学びたいから (1名),

20 「一義性」を学びたいから。特に古代哲学史のレポートで苦慮したドゥンス・スコトゥス (1名),

必要な単位だったから (2名),

ゼミの先輩に勧められたから (1名),

2ヶ月ほど前のことなので正直あまり覚えていない (1名),

25 現実逃避 (1名)

「必要な単位だったから」というのは、どういう意味で必要なのですか?

### 3 質問・要望等

Q.-1 雑談も面白いのもっとして欲しい。

A.-1 毎年、「もっと脱線しろ」派と、「脱線せずに授業をやれ」派がいます。私の言い方では、  
 30 「脱線」(digression)なのですが、脱線だけで、90分もつので、もはや、脱線が本筋となりかねません。しかも、全15回のうちで、もっとも重要なことを、第1回の冒頭で言ってしまったので、もはや、言うべきことはなく、気が抜けてしまい、あとは影のようなものしか残っていません。

Q.0 時々聞き取りづらかったです。

A. 0 もともと滑舌がよくないのですが、最近はそれに加えて、毫碌してきており、思った通りに言うことができなくなっているのかもしれませんが、わからないことがあったら、もう一度言え、と要求して下さい。あるいは、もうやめたほうがよいのかもしれませんが。

5 Q. 1 西洋中世哲学と「ロゴスとキリスト教の出会い」を起点に成立したという論以外の、何か、西洋中世哲学を成立したとみなしうるものはあるのでしょうか。

A. 1 むしろ、西洋中世哲学などない、という説や、そもそも、西洋中世哲学しかない（近現代哲学などと言われているものは、中世哲学のなれの果て、であるという意味で、中世哲学である）という説があります。

10 Q. 2 「哲学者たちが善について語ったことは」とありますが、哲学者たちが語った善とはどのようなものなのですか？

A. 2 引用したギリシア語をみればわかるように、原典では何も言われていません。

Q. 3 Joachim の先のことを予言しておいて、実際にその時になったら自分は死んでいるから、合っていようが間違っていようが関係ないというのは、賢いやり方だなあと思いました。

15 A. 3 ヨアキム自身にはそのつもりはなかったでしょうが、結果としてそういうことになってしまったわけです。しかし、賢いやり方だなあと思うか、ずるいと思うか、あるいは、それ以外の考え方をするかによって、私たち自身が試されているのかもしれませんが。

Q. 4 どうしていつも出席を取らないのですか？

Q. 4' 出席はとるのか？ 試験はどのような問題が出るのか？

20 A. 4, 4' 私自身が学生・院生のときは、教養の英語以外では出席を取られたことがないので、それに、この質問用紙を書いてもらえば誰が出席していたかわかりますし。

成績評価はレポートを提出してもらってやろうと思います。どうしても、筆記試験を受けたいという人があれば、試験を熱望する、と申し出て下さい。

Q. 5 ドイツ語の文献を読みたいです・・・!!!

A. 5 レポート課題の候補に英独仏くらいを探しているところです。

## 西洋中世哲学史 第2回 (2019.06.13. 木)

Q.-2 . . .

A.-2 質問がでないような授業で申し訳ありません。

Q.-1 コメントシートについてこんなにお話して下さるんですね。ちゃんと読んでもらえてい  
5 るんだなって感じられてうれしいです。外国語がたくさん出てきてむずかしいです...

A.-1 語・語句は、基本的に、最初に出てきたときに、意味を示していますし、引用する外国語には基本的に日本語訳をつけていますから、日本語を読んで理解すればよろしいです。

また、このQ & Aについては、過去の授業で、Q & Aの話だけで90分使ってしまう、Q & A  
10 について話すのをやめて、もっと授業を進めろ！という声と、いや、やめないで話をしろ！という声があつて、できるだけ簡潔にQ & Aの話をきりあげるように努力する、ということになって現在に至る、というところですよ。

Q.0 先生の高校の先生になりたくない話がとても面白かったです。就活がんばります。

A.0 今になって振り返ると、高校の先生になって、自分のやりたい研究をやりつつ、部活で  
オーケストラをやるのもよかったかなあとも思います。

Q.1 中世以降はラテン語が哲学・思想を記述する中心になってギリシア語のほうは脇に引い  
15 ていったという感じでしょうか。

A.1 いいえ、両方ともそれぞれが主に使われる地域で使用され続けました。両方を理解する  
人たちもいましたが、東方では、コンスタンチノーブルを中心とするギリシア正教会はギリシア語を、西方、ローマのカトリック教会ではラテン語を用いたため、西ヨーロッパで暮らしていれば、質問者のように思ったかもしれませんが、それは世界で起こっていることの一局面にすぎないでしょう。

Q.2 訳文には、独特な表現が多く、やはり元々の文章と全く同じ意味を表すのは難しいこと  
なのだと思います。原典を自分で読むならば著者との理解の違いが起こっても自己責任だけで、  
25 訳者を通して間違った解釈を植えつけられるのは嫌だなあと思います。

A.2 イタリア語のことわざに、

Traduttore, traditore. (翻訳者 (は) 裏切り者)

というのがあります (おっさんのだじやれのような)。翻訳の可能性・不可能性の原理的 (哲  
学的) 考察は、クワインにもありますが、私たちとしては、古典の翻訳と、現代の著作の他言語  
への翻訳は、ちょっと違うことを知っておく必要があると思います。演習の授業をそれを自分で  
30 経験する必要があります。

Q.3 先生がおっしゃっていたように、原典テキストを読むほうがそこで書かれているニュア  
ンスも理解できるのかもしれませんが、正直、日本語以外で読むことを辛く感じてしまいます。

神は言葉ではなく出来事で示すということを受け入れ、全てを解釈していたら何もできなくなっ  
てしまうのではないかと思います。それならソクラテスのダイモーンのように言葉で教えてくれ  
35 るほうがいいなと思いました。(ソクラテスはダイモーンも解釈していたという見方もできるよ  
うなので、これも少し言葉とは違うのかもしれませんが)

A.3 母国語以外のものを聞くとか、読むことを (すぐに意味がわからなくてもよいから) 楽し  
むことができればよいですね。読むというのは特殊なことで、つまり、文字を読んで理解する  
という事は、(確認されているところでは) せいぜい、5300年くらいしか行なわれていない上に、  
40 19世紀までは、ごく限られた人たちがやっていたことなのですから。

自分が専門に扱う文献が外国語の場合は、自分の思考のスピードとできるだけ同じになるよ  
うに (普通はそうならないので、できるだけ近づける努力をする)、繰り返し読んで訓練することが  
必要です。

ソクラテスのダイモンについては、諸説あるようで、鳥の声だとか、何らかの自然現象だった可能性が高いのではないかと思います。

Q. 4 訳す元の言語によって訳した文章が変わるのは不思議だなと思いました。

5 神が言葉だけでなく、他にも何らかの方法で人々に伝えようとするところがあるという話で、予兆であったり、伏線とも取れるのがおもしろかったです。

教育免許の雑談がおもしろかったです。

A. 4 これは、現代のフランス語と日本語の翻訳についての実験の話ですが、次の本に、興味深い報告がありますので、機会があれば、読んでみて下さい。

鷺見洋一, 2003, 『翻訳仏文法』(上)(下), ちくま学芸文庫.

10 この本の(下), p. 367以降にある「デイドロ学会の体験報告」です。

Q. 5 哲学ではないのですが、私も歴史学の訳された本を読むときに、訳した人が歴史学の専門家ではないとき、ところどころしっかりとしない訳があるので、今回の授業で原著及び原典を見ることが重要であると改めて思いました。

15 A. 5 できる限り、オリジナルにさかのぼるようにするべきですが、残念ながら、物理的にできないこともあります。現物を見ることができると追求することも必要ですが...

Q. 6 中世は暗黒時代ではなく、中世を暗黒時代と考える人のおつむが暗黒時代、というのが印象に残りました。暗黒時代といわれる時間にも人の営みがある以上、何かの発見はあるはずで、それを切り捨てるのはよくない、と言いたかったのでしょうか。

20 A. 6 正確には、「中世は暗黒時代ではなく、中世を暗黒時代と考える人のおつむが暗黒なのである」ということです。中世末期から近世最初期に、中世を批判した人たちは、中世の学術を理解した上で批判していたのが、それに続いた近現代の人たちは、中世を理解できずに、ただ、批判することだけを受け継いだ、というわけです。

中世哲学史に関しては、山内志朗先生(慶応義塾大学)の次のつぶやき(2015年1月24日のツイッター)から引用させてもらおうと、

25 中世哲学? また尋ねられた。中世のヨーロッパの知性の精髓が築いた知の巨塔。桁外れの知性の生み出した人類の知的遺産なのだが、同じくらいの知性がないと理解できない。近世に入っただけの並みの知性では理解できず、煩瑣にして空虚の概念の戯れと捉えたが、そんなことはない。(山内志朗)

30 ということです。つまり、「中世が暗黒」なのではなくて、「中世を暗黒だ」と言っている「近現代人の頭が暗黒」なのです。それほど、中世哲学のレベルが高かったということでしょう。

Q. 7 今日脱線されたお話がおもしろかったです。

A. 7 用意していった話ではなくて、出席者の反応によるので、improvisation(即興)というべきかもしれません。

35 Q. 8 ...ギリシア語とラテン語、全くの未経験ではありますが、違う空気と「脱線」に触りたいので、時々、出席してもよろしいでしょうか。

A. 8 ギリシア語とラテン語の少なくともどちらか、できれば両方を、どんなものか知るために学んで下さい。サンスクリットも。

Q. 9 ...レポートの課題を早めに決めていただけると気持ちが非常に楽です。

A. 9 「レポート課題について」の指示に従って準備を始めて下さい。

## 西洋中世哲学史 第3回 (2019.06.18. 火)

Q.-1 「ないもの」を証明するのは「あるもの」を証明するのより難しい。確かにそうだと思います。あと、関係のない話ですが先生が学生時代に戻るとしたら何のアルバイトをしたいですか？

5 A.-1 本当に、関係ない話ですね。学部生、院生を通じて、家庭教師か塾の講師（授業だけでなく、テキストの作成、編集、新聞広告の原稿作成も）をしていましたが、他に、機会があれば、オケのトラ（オーケストラのエキストラ）で、チェロかヴィオラを弾けたらよいと思います。

Q.0 先生の脱線話好きです。次回も楽しみにしています。

10 A.0 用意して脱線しているわけではないので、その場、その時にならないと、どういう内容になるのか、そもそも脱線するかどうか自分ではわかりません、などという、自己管理ができないので、教員として不適格、とされるかもしれませんが、そもそも、私の人生自体が、あるべき姿からの脱線なのではないでしょうか。

Q.1 今後、中世の思想家をとりあげて解説して頂けるような授業はあるのですか？ 今後のすすめ方が少し気になって。

15 A.1 いつだれが、どういうことを言っている、という哲学史については、「90分でわかる中世哲学史」のような授業をする力もありませんし、する気もありませんので、そういうことを知るためには、簡便すぎることもなく、詳しすぎることもなく、さらに読むべき欧文、日本語の文献の紹介もされているものとして、次のものがあります。

中川純男（責任編集）、2008、『哲学の歴史3 神との対話』、中央公論新社。

20 私の授業では、物理的に原典を入手できなかった場合は別として、原則として、自分で原典を読んだものについて授業で取り上げますので、現時点でそれが可能なのは、ボエティウス、アウグスティヌス、ヒスパヌス、トマス（？ アクィナス）、ボナヴェントゥーラ、バーレイ、オッカム、くらいです。トマスについては、『神学大全』を取り上げる予定です。

25 Q.2 中世の研究をする人たちが、中世など存在しないという側面から入っていくことに驚いた。学問的に考えると批判的な見方から進めていくのも大切なのかと思った。

Q.2' 中世などない、と言っていたが、古代や近現代があるのならば、その中間の期間を中世としておけばいいのではと思った。ないと言っておいたけど実はあると言いたかっただ、とか、なぜそんなに回りくどい表現にするのかわからない。

30 A.2,2' アラン・ド・リベラが、「中世など存在しない」という意図は、あきらかに、中世哲学史の本の読者をギョッとさせ、なんでやねん？と思わせて自分の叙述に引き込むためだろうと思いますが、「中世」という表現が多義的に用いられていて、その意味を補って言い直せば、「(これまで考えられてきたようなひとつのまとまった)中世など存在しない」が、「(私＝リベラが言うような、複数の個々別々の)中世は存在する」というシンプルなことを言っているのだと思います。

35 Q.3 中世世界が複数あったとありますが、それぞれの世界はお互いにその差異を認めあっていたのでしょうか。それとも対立していたのでしょうか。

A.3 そもそも、(時間的空間的に)接触がなかった場合もあるでしょうし、「認める」の意味がむづかしいですが、広い意味で「認める」といってもよいのは、西方教会と東方教会くらいではないでしょうか。

40 Q.4 アラン・ド・リベラの『中世哲学史』序文には、読者の注意をひきつけるためか挑発的な問いが見受けられた。中世哲学が歴史に貢献しているといえるのかなど、こうした過激な(私からすれば)問いは、普通貢献しているだろうとされることが想定されると思うが、それでもこうした問いを公言できるような人は一体どのような意図をもっているのかと思う。

A. 4 まず、第一に、読者を挑発してひきつける意図があきらかだと思います。そして、そして、実際に成功しているかどうかは別にして、読者を納得させる自信があるのでしょうか。

Q. 5 古代哲学史の講義を受けていたときにも思いましたが、哲学史の本はなるべく多く読まないといけないなと思いました。

5 A. 5 おっしゃる通りでございます。そして、ときどき、その哲学史の本が言及しているテキストをその部分だけでもよいかから、原典か（原典の）翻訳でも読んでみる、ということが大事ですね（これは、ヤスパースが助言している通りです。C\_2 ヤスパース「哲学・哲学史について」（『哲学入門』より）：pdf ファイルへ←未読の人は必読！）

Q. 6 7頁のそれぞれの文化での中世世界があるという考えはその通りだと思います。

10 神学と密接していた中世哲学を自然科学が流行していた近世哲学が重用（ママ、要？）視しなかったのは仕方のないことと思いました。

A. 6 「信仰（信じること）」と「学知（知ること）」という観点からみると、一見すると、自然科学は、「学知（知ること）」に重きをおいているように思われますが、実は、自然科学を理想化して、それが何であるかわからないままに、自然科学を信仰している、とも言えるのではないのでしょうか。

15 Q. 7 先生は、居眠りしながらの講義でも・・・ちゃんと話が成り立っているだと思います・・・

A. 7 実は、起きているときと寝ているときの意識の対象の区別がなかったのかもしれませんが、というのは、最近では、自分の勉強のためのテキスト（主に、ギリシア語、ラテン語、その英訳、独訳、仏訳、伊訳などと、注釈書や研究書）を読む時間がないのですが、学生（学部生・院生）のころは、テキストを原文のまま覚えてしまうほど、そのテキストに集中して読んでいたので、寝ても覚めても、やっていることは同じですから、居眠りしながらのほうが、むしろ、脱線もすることなく、テキストを読んで訳して解説することができたのではないかと。

## 西洋中世哲学史 第4回 (2019.6.20. 木)

Q.-1 寝ても覚めても同じことを考えていられる集中力を身につけたいと強く思いました。私は三日坊主はおろか、1日で様々なことを投げ出してしまいます。継続は力なり、と言いますが、なかなか継続できません。何か、どっぷり集中できるようなことを見つけないかと思ひます。

5 A.-1 集中できる対象を見つけれられるかどうかは、ある意味で、出会いのようなものですから、なんともいえませんが、継続、ということは、長時間連続する必要はないので、コマ切れで断続的であってもよく、むしろ、そのほうが、効率的です。例えば、自分ではやりたくないけれども、締切がせまっていて、やらなければならない仕事の場合は、短時間（5分）に区切って集中し、休憩し（5分で、最初は5分以上でもよい）、というのを繰り返すという方法があります。また、例  
10 えば、何か外国語の文献を読まなければならないとき、辞書を引いたり、文法書を調べたりしながら、ノートをとって読むわけですが、まず、5分やって、2分休憩（5分休憩でもよい）、そしてまた5分やって、休憩し、調子がでてきたら、7分やるとか、10分やるとか、調べてもわからないところがあれば、また、後でやることにして、先を読むとか、別の種類の勉強をするとか、実は、  
15 通常の、他の仕事の空き時間に、少しずつ、コマ切れの時間に入力しています。

Q.0 先生は哲学の本を読むための言語（ギリシア語やアラビア語など）をどのように勉強しましたか？

Q.0' 哲学の本を読んでみようと思うが、先生はギリシャ語など、どのように勉強したのですか？やはり大学で学んだのですか？

20 A.0,0' ギリシア語は、高校の時から文法書は手に入れていたのですが、勉強する時間がなかったもので、大学入試が終わってから入学するまでの春休みに、独学で文法を勉強しました。名古屋で大学に入学してからは、授業で文法を学びなおし、文法を一通り終えてからは、ギリシア語のテキスト（アリストテレスやプラトンなど）を読む読書会や演習（授業）にいくつも出て学びま  
25 した。アラブ語（アラビア語）は、京都で大学院に入ってから、最初は独学でやっていましたが、授業に出て勉強したり、アラブ連合（エジプト）から来ている人に、個人レッスンを受けて勉強したりしましたが、テキストを読む演習を受ける機会がないので、自分で読んでいる状態です。

Q.1 信仰には色々な形があると思ひ、神（かそれに準ずるもの）や自然に対する信仰以外の信仰も調べてみたいと思ひました。

30 A.1 例えば、人工物に対して、ということでしょうか。確かに、その場合は、「信仰」の意味を考えることとなりますから、その作業は哲学的に意味があると思ひます。

Q.2 (06/18) 神の存在が哲学に少なからず関わっているが（しっかりとした根拠にもとづいていないが、なんとなく）神はいないと私は考えている。

神と哲学の関わりの変遷は興味があるし、中世はその関わりが強いと思ひるので、受け入れられるように、または批判できるようにレポートの準備をすすめる。

35 A.2 前半は、現代人には（それも日本人には）よくある考え方ですが、「神」という言葉で、それぞれの時代の人は何を考えているのかを吟味すれば、哲学的な議論を展開できるでしょう。古代にも、中世にも、現代と同じように、「神」を認めない立場もありましたが、逆に、少なくとも、17世紀までは（例えば、デカルトもライプニッツも）、哲学にとって「神」は重要なテーマでした（様子が変わるのは、18世紀のあるときから）。ですから、現代の私たちが「神」をどう捉えるか  
40 かは別として、中世にせよ、近世にせよ、「神」を扱った哲学者たちが、どういう考え方をしていたのかを知るためには、テキストに「神」がでてきたら、それを無視しては、正確なところはわからなくなってしまう。

つまり、理解できないように思えることであっても、それを研究対象とする私たちとしては、私たちがどう考えるかは別にして、彼らがどう考えていたかを探究する余裕が必要である、ということ  
45 ことです。いずれにしても、自分とは違う立場の主張を一旦受け止めて理解して、次に、それを





Q. 6 哲学史を理解しようとするのなら、まずは複数の哲学者やその思想にみられる特徴の違いを見つけることだ、ということを知ったことがあるのですが、やはりそのような相違点を発見することが、哲学史についての理解に適した方法なのでしょう。ただ、そう簡単に違う点はこれだ、と決めることはできそうにない気がします。

5 A. 6 哲学者ごとの考え方の違いであれば、どんな哲学史の本でも、例えば「プラトンは～だが、アリストテレスは～だ」くらいのことは書いてあるでしょうから、自分で読んでみてそれがわかる哲学史の本を何冊か選んで読んでみてはどうでしょうか。

Q. 7 原典を読むことの大切さを強調なさっていたのが印象的でした。今の日本の専門家とされる人の中にも、原典に当たらずに解説書に頼っている人が多くいるのでしょうか。

10 A. 7 当事者に尋ねてみなければわかりませんが（尋ねるのがこわいですが）、例えば、ドイツの哲学を専門にしている人が、ギリシアや中世（ラテン語）の哲学、それに、フランスのものに言及するときなど、その人の学習歴を考えると、あるのかもしれませんが（が、書かれて活字になったものがすべてですから、それを読んで判断するするしかありません）。

Q. 7' 原典について、食べ物のはたえは衝撃的でした。

15 A. 7' Web 上の pdf を読んでほしいのですが、やはり、出力したものを配布しましょうか。

Q. 7'' 資料 p. 10 「中世哲学に限らず、」以降のこと、ヤスパースの述べていることに通じていると感じました。

A. 7'' そのヤスパースですが、精神医学・心理学の専門家としては、門外漢の自分は、一目置かざるを得ないのですが、哲学史・思想史に関しては、特に、ヤスパースは東洋に関しても発言しているの、多くの情報をドイツ語訳されたものに負っているのだらうと思います。そうすると、  
20 翻訳で読んでも、翻訳者のことばを通して、あるいは、超えて）原著者の意図をつかむ能力も必要なのであろうと思われま。そういう力は、どうすれば、身につけることができるのか、あるいは、もともとそなわっているものなのか。同じ原典の異なる複数の翻訳を比較して読むと、ひょっとして、わかるようになるのかもしれないと思います（逆に、原典を原語で読んでも、読解力が  
25 足りなくて、原著者の意図をつかみきれない、ということもあるかと思ひます）。

Q. 8 「知らない」ということ事体は愚かなことなのでしょう。

A. 8 「知る」の意味と、「愚かである」の意味を規定した上で考えるべきでしょうが、その人が  
おかれた状況、事情によって、知ることができていない事柄があっても、直ちに愚かである、とは  
30 言えないでしょう。私も大学内で、ある事柄が、決定されてから、結果だけを知らされることがあ  
り、それを決める過程で意見を言う立場にあれば、違うようにしたのに、と思うことがあります。

Q. 9 日本語で読めるイブン・シーナーやイブン・ルシュドに関する本にはどのようなものがあるのでしょうか。

A. 9 原典の翻訳としては、平凡社の『中世思想原典集成』の 11 巻、『イスラーム哲学』（竹下  
政孝監修）があります。

35 また、哲学史・思想史的な記述としては、井筒俊彦、『イスラーム思想史』、中公文庫がりますが、これは、井筒俊彦の著作集にも入っていると思ひます。

さらに、複数の研究者による、組織的な研究論文集として、竹下政孝・山内志朗編の『イスラーム哲学とキリスト教中世』（全 3 巻、岩波書店）があり、この中で、イブン・シーナーが扱われています。

40 そして、翻訳ですが、コルバン、1974、『イスラーム哲学史』、黒田壽郎、柏木英彦（訳）、岩波書店、があります（原著は、Corbin, H., 1964, *Histoire de la philosophie islamique, I : Des origines jusqu'à la mort d'Averroès*, Paris. ).

Q. 10 レポート、どんなことを書こうかすごく悩みます。

A. 10 中世哲学史そのものとしては、脱線ですが、次のようなものも O.K. です。

中世哲学史に限らず、哲学史の学び方が話題になっているので、ショーペンハウアーやヤスパースの言っていることを考慮に入れて、誰（どのレベルの学力をもっているか）を対象に、何（どのレベルの内容か）を授業で扱うかを、何をと到達目標として授業をするのがよいかを考えることです。受講者の専門を問わない教養科目か、（専門外の学生も受講するけれども）学部の（入  
5 門的）専門科目であるか、によっても扱いが異なるでしょうが、この場合、わかりやすく具体的に言えば、ギリシア語やラテン語を学んでいない受講者に、どのようにして、ギリシア語やラテン語で書かれた一次文献を扱った研究成果を伝えるか、ということになるでしょうか。

2年次の学生が、外国語の知識を必要とせずに履修して、理解できる授業は、そのままでは、ショーペンハウアーやヤスパースの要求を満たすことはできないとすれば、どのような授業が可  
10 能か、実際に、そういう授業の試みの研究成果が、今では、Web 上にある、個々の大学の紀要に掲載されていて、読むことができるようになっています。授業の実際の状況（授業の方法、内容、目標や理念）と、ショーペンハウアーやヤスパースが念頭においているであろう、学習者のレベルを考慮して比較してみるとか。

CiNii で 哲学 哲学教育 教養教育 など論文を検索すると、研究論文は結構書かれている  
15 ようです。

## 西洋中世哲学史 第5回 (2019.06.25. 火)

Q.-3 今日配られたラテン語の資料, すごいです (→こんな量読めないという意味で...). 大学で研究者 (特に思想系) を生業とする者にとっては避けて通れない道なんですかね,

A.-3 そうでもない人もいますよ...

5 Q.-2 真下信一さんの「ヤスパース」の言い方のあまりの違いにびっくりです.

A.-2 これは, ほとんどちがいません. それくらいでびっくりしてはこまります. 幕末, 明治, 大正, 昭和...とそれぞれの時期に, 同一人物の名前が様々な日本語表記されています.

フランス語がよくできた中江兆民は, ショーペンハウアーのことを, たしかスコペンノエールと書いていたように思います. 朝永三十郎先生は, 一時期, デカルトのことを, デカートと表記  
10 していましたし, 以下に, 思いつくものをあげると,

昔の表記 (現在の表記)

フッセル (フッサール) / シルレル (シラー) / ベルグソン (ベルクソン)

オーガスチン (アウグスティヌス), 亜古志丁 (あごしちょう) (アウグスティヌス)

ベンザム (ベンサム, ベンタム)

15 今でも表記が一定しないで, 今でも並存している名前もあります.

コーヘン, コーエン, コヘン / キルケゴール, キェルケゴール / ハイデガー, ハイデッガー

Q.-1 哲学を志す者として, 神学を学んでみたいと思った. でも, 私は"神"の存在を信じていない. もし, 神の存在を信じていないのであれば神学を学ぶことは不可能なのでしょうか?

A.-1 神学生としては不可能ですが, 学ぶ, 触れることはできでしょうから, 触れてみることは無駄ではないでしょう. もっとも, きちんと学ぶには, ヘブライ語, ギリシア語, それにラテン語を学ばなければなりません.  
20

Q.0 先生は第一原因はあると思われませんか.

A.0 わかりません. ある現象の原因 (の連鎖) をさかのぼって行って, もうこれ以上遡及できないという意味での第一原因があるのかもしれませんが, もうこれ以上遡及できない, という  
25 ことが, さかのぼろうとする自分の能力の限界なのか, 原因そのものの存在のあり方なのか, それを判断することができないと思うからです.

質問の意味は, もっと直裁に, 神は存在すると思いませんか? ということでしょうか. 昔, 高知大学での集中講義のときの学生との Q & A にそういうのがあったような気がします. (授業関係の Web サイト参照)

30 Q.1 「同一のものについて信仰と知識が併存することができない」この一節にすごくインパクトをくれました. 「知らないこと」しか「信じること」が出来ないってのは, 自分的にはすごく納得できると思った.

あまり哲学書に書かれていることに共感できないのですが, 解釈の仕方は間違ってるとしても, インパクトは受けました.

35 Q.1' トマスの話にあったように「知る」や「信じる」など今でも使うような言葉ではあるが, 意味は違うという点がややこしいなと感じた.

Q.1'' 「知る」ことと「信じる」ことで神は根拠がないため「信じる」ことしかできないということがわかった.

40 Q.1''' 今日の授業の中で「同一のものについて, 信仰と知識があるということは不可能である。」という中の信仰が日本語の信じるとは少しニュアンスが違っているということを知り, 改めて日本語訳だけでなく, 様々な言語の訳を読み原典が何をあらわしているのかを理解していくことの重要性を改めて感じました.

A. 1, 1', 1'', 1''' 日本語に訳すことに限界があるわけですが、単語のレベルでみるとわかりませんが、文の中にその語をおいてみると、わかるように訳すことができればよいのですが... 実際、中世論理学では（例えば、14世紀のオッカム）、単語レベルでの意味表示（significatio）と、文中での代表・代示（suppositio）の区別しています。

5 Q. 2 また、今日の授業の中で、真理についてとり上げられていましたが、昔から疑問に思っていたのですが、真理とは人間に分かるものなのですか？ 私は真理は分かることがないものだと思います。

A. 2 真理をどういうものと考えているか次第ではないでしょうか。例えば、数学などの学問的な内容の場合でも、最初から存在しているもの・ことを人間が発見していると考えるか、そう  
10 ではなくて、人間が作っている（考え出している）と考えるかで違ってくるでしょう。

Q. 3 キリスト教において神とはどういうものなのかいまいちつかめない... キリスト教の信者は神を思想とみなしているのか、存在する者として扱っているのか。神とは何なんでしょう。

A. 3 それがわからないから、研究しているわけですが、さしあたり、創造論があつて、神は創造主とみなされているということは言えます。しかし、「いまいちつかめない」まま、<? >  
15 として疑問をもち続けてください。おそらく、疑問をもち続けることが大切なのだと思います。

Q. 4 神が絶対に存在し、神を知ることで真理が得られるという考えで神の存在を全く疑わず、それで神学は哲学よりも優れている、としたのが印象的でした。

A. 4 論じ手が、どういう前提にもとづいて論じているかを知って、その論じ方自体の論理構造を追うことは、哲学としては可能ですし、そうべきですね。

20 Q. 5 相手の反対意見をさらに強化した上で論を展開していくやり方は人を納得させるためにすごく理に適っていると思いました。もし自分が反対している立場なら自分たちの意見を洗練させたものでさえ反論できないような説を出されれば納得するしかないだろうと思います。

A. 5 スンマ（『神学大全』）は、トマスだけでなく、トマスの師匠のアルベルトゥス・マグヌス（マニウス）や、ヘールズのアレクサンダーや、何人もが書いていますが、トマスのスンマが  
25 完成度も後世への影響力も大きいと言えます。このスンマの論述方法は、古くは、アリストテレスの『トピカ』に遡ることができるのではないのでしょうか。

Q. 6 高校の倫理では、「トマス・アクィナス」といえば「哲学は神学の婢」と覚えさせられたのですが、今回の講義を聞く限りでは、トマスはどちらが下とっているようには思えません  
30 でした。

A. 6 トマスは、実はかなり哲学的というか、哲学的思考をしているという意味で、充分、現代でも現役の哲学者です（本人は神学をやっているのでしょうか）。その哲学的な論述をを取り上げて、現代の議論として通用するどころか、その論理性においてまさっているとさえ言えます。「哲学は神学の婢」の典拠は、トマス以外にあるらしいのですが...

35 Q. 7 トマスの方法による区別において、神が認識するのは神自身だけだというお話が出てきました。しかし、そもそも認識とは人間がする行為であつて、神が認識するかどうかは誰にもわからないと考えます。神を人間と同じ行為をする存在として捉えてしまうのは人間の思い上がりなのではないのでしょうか。

A. 7 神については、クセノパネス的な発想ですね。そして、「誰にもわからない」というあたりは、神がどういうものであるのかは、少なくとも、（有限な人間とは）異なる、としか言えない  
40 とする否定神学（偽ディオニシウス・アレオパギタ／偽ディオニシウス・アレオパギテース）をさらに進めて、何も言えないという、無言神学に進んでいるのでしょうか。トマスは、アリストテレスの「思惟の思惟」「（愛されるものとして他を動かす）不動の動者」としての神を、創造主としての（ユダヤ・キリスト教の）神に取り入れて、神は認識するという重要な意味を与えます。神が神自身を認識するということがすなわち、神がこの世界を創造するというと同じ  
45 ことにまですります。（このことは、テキストを論理的にたどっていかなければわかりませんが）

## 西洋中世哲学史 第6回 (2019.06.27. 木)

Q.-2 前回の授業を欠席したので最初の質問回答のところが何もわからなかったんですが、名前のよみ方はおもしろかったです。今回の授業には何も触れてなくてすみません...

A.-2 資料など手許にない場合は言ってください。まだ、残部がありますので。

5 Q.-1 プラトン (Plato, Platon) の発音の話が1番おもしろかった。アリストテレスにも様々なつづりの違いがあることを知った。

A.-1 ひとつの言葉だけに凝り固まらずに (これを専門に集中するとかいう)、できるだけ、いろいろな国の人がどう言っているかにも注意を払ってほしいと思います。実は、半分冗談のような推測なのですが、なぜ、フランス人は、アリストテレス (Aristoteles) のことを、アリストット (Aristote) というのか、気づいたことがあります (間違っているかもしれませんが)。

10 Q.0 P18 (ママ, p. 18) 「上位の学」の神と至福者たちですが... 至福者たちについて言及されませんでした。一体誰を指しているのですか？

A.0 誰だと思えますか？ 調べてみて下さい。

Q.1 神を仮説と考えると「学」という感じになるのかなと思いました。

15 A.1 個別学とか領域学といって、その学が扱う対象の範囲が限定されているのが、通常の学ですから、それらの学は、あらかじめ前提していることがあって、もしそうであるとすれば～である、ということをはっきりとさせるわけで、仮言推論を行なっているのです。

20 しかし、すべての学問が、仮言推論 (もし～だとすれば、～である) で成り立っているということは、仮言 (もし～だとすれば) の部分も、推論 (～である) の部分も、さらに究明・解明の対象となるわけで、特に、仮言 (もし～だとすれば) の部分をどこまで解明できるかが、問題になるでしょう。実際に、それぞれの学問 (= 個別学とか領域学) は、それをやっているわけです。

Q.2 神の知と神学、幾何学と数学、私は神の存在を信仰している宗教などが無いので信じられませんが、神を信じる人からすれば非常に納得のいく説明なのだろうと思いました。

25 A.2 Q.1 と関係しますが、前提を信じるという仕方では認める場合と、前提を信じないが議論の前提として認める場合も、以下の推論の論理的必然性は変わらないものであるという点が重要です。

Q.3 17 ページ 646 行目で、信仰を持たない人にとっては聖なる教えは学ではないということになるのですか。

30 A.3 前提を信じるという仕方では認めるにせよ (信仰のある人はこの仕方では認める)、信じないが、議論の前提として仮に認めるにせよ (信仰がない人の場合)、何らかの仕方では、前提を認めないと、それ以降の議論は学として意味がないでしょう。『神学大全』は、信仰のある学生たちに向けて書かれていますから、著者トマスとしては、その点を考慮する必要はなかったわけです。(異教徒に対しては、信仰を前提としない『対異教徒大全 (護教大全)』が書かれています) しかし、今、私たちは、信仰のあるなしにかかわらず、信仰のある学生たちに向けて書かれている『神学大全』の議論の中味はどうなっているのかを見ているわけです。

Q.4 第二項 「聖なる教えは学であるか」で、結局、学といたいのかそうでないのか分かりませんでした。

A.4 主文に、「答えていなければならない。聖なる教えは学である」とあるように、学であると言っています。

40 Q.5 聖なる教えは学であるかという問いに対し、身近な事例 (算術と音楽の関係性など) を出して学であると主張していましたが、私はこの説明でなるほど確かに学であるとは必ず言えるとは思いませんでした。

A.5 思わなくて当然でしょう。神や至福者の知 (A) : 聖なる教え (B) = 算術 (C) : 音楽 (D) と

説明されても、A の存在を知らない（認めない）者にとっては、実感がありませんから。せいぜい、もし A があるとすれば、という条件がつくでしょう。それが、先に、Q. 1 で言われていた、仮言推論ということです。もっとも、A. 3 で指摘したように、『神学大全』は、信仰のある学生たちに向けて書かれているから、問題はないわけです。

- 5 Q. 6 「信じる」「信じない」の話で、日本語の「信じる」、トマスの「信じる」といったように、言葉の中で異なる意味、ニュアンスがあるため、慎重になろうと思った。

A. 6 その表現が使われている文脈を考えてどういう意味で言っているのだろうかということ意識して読む必要があります。自分が理解できなかつたり、納得できない場合は、むしろ、ありがたいで、というのは、その表現の自分の使い方（意味）と、テキストで使われている意味が  
10 違っている可能性があるからで、その違いやずれをもとに、理解に向かう可能性があります（原語の学習も伴いますが）。しかし、何の違和感もなく、理解できたと思うときには、実は原著者の意図を勘違いしてわかったつもりになっていることがありえるので、しかも、自分はそのことに気づいていない、という困った事態が出来（しゅったい）しているからです。大体、700 年も前の、  
15 国も文化も宗教も、それに使っている言葉もちがうトマスの著作を、いきなり翻訳で読んでわかるというほうがおかしいと思います。

Q. 7 誰かある哲学者の思想を学びたいと考えたときには、その哲学者だけでなく、その人に影響を与えた人の考えも理解しなければならないというのは、とても大変なことだと思いました。

学問を深めるためには、色々なことを学んで、多くの知識を得なければいけないと感じたので、とにかく色々なことを知っていこうと思います。

20 A. 7 同じ問題を扱っても、人によって学識や研究上の背景がちがうので、それがその人の個性となってあらわれるのだと思います。それは、単に知識ではなくて、考え方の類型を知っていることが大切で、しかも、自分が好きだとか嫌いだとかによらず、むしろ、違和感がある考え方を、なんでそう考えるのかこの人たちは？ という余裕をもって知ることができるとよいですね。今は、せつかく大学にいることの利点を生かして、機会があればなんでも学んでみて下さい。あ  
25 る程度、自分の専門とする研究対象が定まってきたら、それとは違うものをいくつか、勉強してみるのがよいのですが、哲学・西洋哲学史を専門にしていれば、中国思想文化学（昔の中国哲学史）、インド哲学・仏教学にも触れることです。

Q. 8 三位一体の方がいいです。

A. 8 古代（アリストテレス）、中世（トマス）と続く「学」の特徴について、論理的必然性の  
30 問題を考えると、近現代に通じる、というより、近現代でもなお、問題であり続けていることに気づくので、必然性を取り上げようと思っていましたが、それをできるだけ駆け足でみて、三位一体の話をしようと思います。

---

（参考）年表も参照。

35 ヘールズのアレクサンデル (c. 1185—1245)

アルベルトゥス・マグヌス (c. 1193—1280)

ボナヴェントゥラ (c. 1217—1274)

トマス・アキナス (c. 1225—1274)

## 西洋中世哲学史 第7回 (2019.07.02. 火)

Q.-3 高校時代に一時期中国古典に傾倒していたことがあったので、四書は読んだことがあります。五経は読んだことはないですが、

A.-3 ぜひ、五経も読破しましょう。

5 Q.-2 論語には一切触れたことはありません。

インド哲学に関しては、原典は全く読めないのですが、ナーガルジュナの空の考え方には少しだけ触れたことがあります。

A.-2 『論語』を読みましょう。すでにこれは、現代中国語ではないので、どう読むか、という問題があって、現代の解釈者の解釈の違いが非常におもしろいです。龍樹の『中論』も、『中論』  
10 だけではわからないので、たとえば、チャンドラキールティの註釈『プラサンナパダー』に従った解釈によって理解する、ということが必要ですが...

Q.-1 音楽が数学っぽいものの中にあると聴いたとき、噂で、数学が得意だとピアノが上手であるというのをどこかで聞いたのを思い出した。

A.-1 ピアノの演奏ということになると（他の楽器の場合もそうですが）運動神経とか身体的  
15 な条件がかかわってきますが、むしろ、作曲とか編曲とか、理論的な面での音楽と、数学は、同じ人がどちらも得意とか苦手とかが、つまり、得手不得手が一一致する傾向はあるかもしれません。

Q.0 私には朝6時から授業に出席するのはかなりつらいことです。また、朝から晩まで授業を受けて、何年も頑張り続けることはできないと思います。こう考えると、昔の人は本当にすごいなと尊敬します。

20 Q.0' 今日の授業で大学の哲学部を終えるのに頭の良いと言われているアレクサンデルでも10年かかったということを知って、中世の大学がとても難関であったと思いました。また私は朝起きるのが苦手なので午前6時から始まる授業を受けていた中世の人たちはすごいなあと思っていました。

A.0,0' 照明装置の問題があったので、明るくなったら活動して、暗くなったら寝る、という  
25 のはどこの国でもどの時代でも共通で、もし、その時代に生きていたら、朝6時からの授業に出席できると思いますよ。

Q.0'' 大学の講義の時間割表に興味深かった。復習をかねて先輩からわざわざ講義の時間として勉強を教わる機会は、なかなかないので、めずらしいなと思った。

A.0'' 後輩に教える先輩のほうも、教えることが自分の勉強になるので、うまいやり方だと思  
30 います。すでに、現在の Teaching Assistant のようなものがあったわけですね。また、今でも、分野によっては、大学院生やODの人が、学部生に原典テキストと一緒に読んであげて、教員の指導の助けをしているところがあります。

Q.1 当時の大学のシステムの話が面白かった。哲学をベースとして神学や医学に派生していくスタイルは今の学問に通ずるところはあると思います。それなのに哲学をはじめとする文学部  
35 を縮小しようとする文部科学省に対し、先生はどう思いますか？

A.1 そんな文科省はおわっている、と思います。北斗神拳ふうになると、「お前の政策はすでに死んでいる」というところでしょうか。文科省のお偉いさんが、例えば、大臣が、私学出身だと、国公立にきびしくなる、という傾向があるように思います。誰か大臣になって、高校に「哲学」を科目としてつくり、小学校から「哲学」を学ぶように改革してくれませんか。

40 『週間ダイヤモンド』(2019/6/8号)では、「使える哲学」が特集されていますが、欧米の（と言ってもたぶん主に英語圏）企業では、哲学を専門に学んだ人たちがビジネスで活躍していることを紹介しています。

Q.2 大学に入ってからすぐに哲学部・学芸学部に入れられるのは、おどろきでした。特に医学を学ぶにあたって修辞や論理というのはあまりに方向性が違うと（現代の感覚では）感じます。

A. 2 哲学部=学芸学部は、将来の専門が何であれ、教養科目を提供するところですから、まず哲学部で、三学四科（自由七科，artes liberales, liberal arts）を修めないと、専門に進めないわけです。これが、教養科目と専門科目の関係で、こういう大学が、現代につながる中世の最大の、と言ってもよい発明なのです。

5 さらに、医学に関して言えば、もっぱら基礎研究をする研究者なら別ですが、臨床医になるなら、患者を相手にすることになるので、コミュニケーション能力が重要で、むしろ、修辞や論理は必須の科目だったでしょう（もつとも、当時そんなことを想定したかどうかはわかりませんが）。現代では、むしろ、医者とのコミュニケーション能力に重点を置いた教育課程を設置している医学部があります（アメリカの例ですが）。

10 Q. 3 訳された文献というものは、当然ながら訳者がどのような人物であるかを考慮して、その訳者が本当に信頼できるのかを常に考えておかないと、理解したつもりになっても正しい理解にはつながることができないのだと今日も感じました。

当時の大学が午前6時から始まっていたことには驚きました。

A. 3 できるだけ原典にさかのぼることができればよいのですが...

15 ハイデッガーの講義の記録をみていたときに、朝の7時くらいから講義をしていたようなことを読んで記憶があるのですが（20世紀前半の話です）... 記憶違いでしょうか...

Q. 4 「分からない事」に対しての取りくみ方として、私はいつもインターネットの情報に頼るので、考える力が養われていないと思う。時間は捻出すればたつぷりあるはずなのに答えを焦って求めて、「分からない」に鈍感になるのはせつかく大学にいるのもつたいないと思う。

20 「三学」と調べたら、はじめ仏道についての情報が出てきて、どういうことかわからなかったが、「三学四科」を調べたら、リベラル・アーツと出てきた。

A. 4 大切なことに気がつきましたね。ネットで調べるのは禁止、という条件をつけて課題を出している先生もおられます。

後半は、先の artes liberales(liberal arts) ですね。仏道のほうが気になります。

25 Q. 5 なぜ何千年も前のアリストテレスが今でも中世でも研究されているのか今更ながら気になりました。

A. 5 確認されている文字情報は、ほんの5300年くらい前でしかないのですが、アリストテレスは、2400年前ですから、人類の歴史全体からみれば、ごく最近のことです。

30 哲学史をみればわかるように（しかし、勉強しなければわからないことですが）、古いものが改善されて、新しいもののほうがよいとはかぎらないのが、哲学です。アリストテレスの著作集（実はほとんどが講義録か講義ノート）は、アリストテレス独自の考え方もさることながら、それまでの学問を総合し体系化していることから、アリストテレス以降の学問分野全体に対する影響力が絶大で、アリストテレスは現代でも現役の哲学者であると言っても過言ではないでしょう。

35 というより、新しい時代のほうが、それ以前のレヴェルの高さを理解できずに、批判して、新しいものほどダメになっている、とも言えるのではないのでしょうか。

Q. 6 大学の授業では出席して話を聞いてメモをとる... という当然のことですが最初の頃に比べて全然できなくなっているのが、初心にかえて真面目にやりたいと思います。

40 A. 6 そうしてみてください。しかし、ひょっとして、手を動かさずに（ノートをとらずに）、耳で聴くだけで理解する、という訓練も意味があるのかもしれない、と思ったりします。ただし、授業のあとで、理解したことを、全部書き出してみる、とかしないと確かめられないですが、自分で工夫してみてください。

Q. 7 先生がおっしゃる通り授業で取り扱っている資料はとても珍しい貴重なものだと思います。もっとメモを取りたいと思います。

A. 7 そうですね。書くことによって、頭の中を整理するというでもありますから。



Q. 8 神学部はだいぶ特殊だったのだなと思いました。

A. 8 どういう点が、特殊だったと思うのですか？

Q. 9 コメント p14. (ママ, p. 14) の下記アレクサンデル, アルベルトゥス, ボナヴェントゥラ, アクィナスの話は大変面白く興味深いものでした。

5 4人共, パリ大学で入学し, 一般教養で哲学を学んだのち, 専門へ進んでいる...

フランスが哲学を重要視している背景を強く感じた。

A. 9 講義は, 伝言ゲームのようなところがあるので, 口頭で伝えるだけでなく, 文字でも伝える必要があるのに, 口頭でしか伝えなかったのが, 申し訳ありませんでした。

件の四人ですが, 全員が, パリ大学に入学したのではなくて, 四人に共通しているのは, パリ  
10 大学で神学教授として講義をしたことがある, という点です。

ヘールズのアレクサンデル (c. 1185—1245) は, イングランド出身で, パリ大学に入学し (1200年ころ?), 1210年頃, 自由学芸を修了し, 後に, パリ大学で神学教授として講義をする (その教え子にボナヴェントゥラがいる)。著作に『神学大全』『命題集註解』がある。フランシスコ会に所属。

15 アルベルトゥス・マグヌス (c. 1193—1280) は, ドイツ南部出身で, パドヴァ大学で学び (1223年ころ?), ケルンの修道院で神学を学ぶ。後に, パリ大学で神学教授として講義をする (このときの学生に, トマスがいる)。その後さらに, 大学をつくるためにケルンに移るが, これにトマスもついていく。著作に『神学大全』『命題集註解』がある。ドミニコ会に所属。

20 ボナヴェントゥラ (c. 1217—1274) は, イタリア中部出身で, パリ大学で学び (1236年ころ?), 後に, パリ大学で神学教授として講義をする。著作に『命題集註解』がある。フランシスコ会に所属。

25 トマス・アクィナス (c. 1225—1274) は, イタリア南部出身で, 1239年にナポリ大学に入学し, パリ大学に移って神学を学ぶ (このときの先生がアルベルトゥス・マグヌス)。アルベルトゥスがケルンに移動するのについて行き, 後に, パリ大学で神学教授として講義をする。著作に『神学  
25 大全』『命題集註解』がある。ドミニコ会に所属。

30 パリ大学で, 哲学部=学芸学部の課程 (三学四科=自由学芸, 自由七科) を学んだのは, フランシスコ会のアレクサンデルとボナヴェントゥラだけで, アルベルトゥスは, イタリアのパドヴァ大学で, トマスは, ナポリ大学で学んでいます。また, 神学部の課程も, パリ大学で学んだのは, アレクサンデル, ボナヴェントゥラ, トマスの三人で, アルベルトゥスは, パリ大学では学んでおらず, パリ大学へは教えに来ただけです。最初に述べたように, 四人に共通しているのは, パリ大学で神学教授として講義をしたことがある, という点です。

## 西洋中世哲学史 第8回 (2019.07.04.)

Q. 1 必然性と一言で表すにしても、本当に様々なことを考えなければいけないのだ、と実感しました。「AがBである」ことを、その言葉のまま鵜呑みにするわけではなく、きちんと考察し  
5 ないといけないんだということを知り、言葉の使い方は本当に難しいと感じました。また、言葉の使い方を学ぶためにも、日本語以外の言葉も学ばなければいけないと思いました。

A. 1 田中美知太郎先生が言っておられるのですが、授業では、かならず外国語の文献を扱って  
読んで訳してなにを言っているか考える、という作業を学生諸君にやってもらうようにしている、  
日本語の文献は使わない、ということでした。論理的に考える訓練と関係があるかもしれません。

Q. 2 "必然性"というもののそのものの概念や捉え方にここまで違いがあることを知った。(人間の  
10 思考、主観など)やはり、現代を生きる私たちとは考え方が違うという点が興味深かった。

A. 2 今でも、少数でしょうが、様相論理という論理学のジャンルで、必然とか可能とかを考  
えている人たちは、「現代を生きる私たち」の中にいます。

Q. 3 大学に入ってレポートを書くようになり、「～であるから～」という構成を何も考えず  
15 使っていたので、その推論の必然性が何に基づくのかを考えるのは新鮮だった。

改めて、世の中のどんなことでもなぜそうなるのか、真理を追究する哲学という学問はすごい  
なあと感じます。

A. 3 「よって」という、本来、数学や論理学で用いる、厳密な演繹推理の帰結(結論)を導く  
20 接続詞が、(使われるべきでないところで)しばしば使われる傾向があるのは、ご指摘のことを関  
係があるのでしょうか。

Q. 4 人の意識が必然性を作るという考えは必然なものは必然としか考えたことがなかったの  
でとても新鮮でした。

A. 4 数学(の対象)も人間が作っている、という考え方があります。数学の外かみていると、  
25 そういう感じがすることもあります。そう考えない場合は、あらかじめ存在するけれども、人間  
が気づいていなかったもので、気づいたとか発見した、というように考えるのでしょうか。しかし、  
気づいた、というのも、作った(考え出した)、というのも、事態としては、同じ事態を指して言わ  
れているわけで、数学者自身はそのことを問題にしません、学問論としての哲学は引き受けな  
ければならない問題でしょう。

ボルツァーノの有名な「命題自体」Satz an sich という考え方は、この問題を考えるのに、よい  
30 例だと思います。

Q. 5 トマスは2種の必然性を区別して、それらの関係やどちらが正しいかなどは言っている  
のでしょうか。

A. 5 二種類の必然性は意味が違うので、どちらが正しいとかいうものではありません。アリ  
35 ストテレスが『分析論後書』で扱っているのは、その両方であり、どちらもある、と言っています。

Q. 6 資料24ページの911行目にある「純粹客観的イデア的概念」という語句について、単に  
40 パッと見ただけでは全く何を表し、何を意図しているものであるのか分からないとしか感じなかつ  
たが、この中に唯一カタカナで表記されたイデアという箇所からプラトンを意識したものである  
と考えられるということを知り、翻訳というものの繊細さ・難しさを感じ、資料翻訳する際に慎  
重に行なうための1つのヒントになったと思う。

A. 6 この場合、idealeを「観念的」と訳すと、その後のBegriffが「概念」なので、「観念的  
40 概念」となって、わからなくはないけれども、日本語としてどうかな、ということもあると思  
います。

Q. 7 哲学の本を読むとき、難しく、抽象的な概念がでてきたり、自分には分かりにくい表現  
などがあり、著者の主張が部分的にしか分からないことがよくあります。どのようにしたら、哲

学の本をより理解できるようになるのでしょうか。良い方法があれば教えてください。

A. 7 ひとつは、一度読んですぐに分かるうなどと考えないことです。そして、分からない箇所を書き出して、覚えてしまうくらい、考えることです。人に尋ねるのもよいでしょう。一定期間（三日、一週間、一ヶ月・・・と）疑問を持ち続けることができればよいのですが、また、もちろん、分からない語句などは、可能な手段すべてを動員して調べることです。外国語ならば、その外国語辞典、日本語の国語辞典、それに、哲学の用語辞典などを引くことが必要でしょう。

著者や著作のタイプによって、語句や表現の定義を与えてから、議論を展開するタイプと、特に定義を与えずに、論述を始めてしまい、著作全体を読むと（なんとなく）わかる、というタイプがあります。

10 それから、古典か、同時代の著作（近現代）か、によっても分かり方はかなり違います。

Q. 8 敵を知るために文献を読んでいるうちにハマってしまった、というのは、すぐに自分の考えを改められるという点ですごいと思いました。僕だったら、相手の考えに説得されたように感じたのが癪で粗探しをしてしまいそうです。

A. 8 フッセル（フッサール）が読んだのはカントだったので、そういうことになったのでしょ  
15 う。哲学をやるなら、自分の専門でなくても、『純粹理性批判』は読んでください。粗探しは、批判的に読む、ということなら、どんどんやってください。

Q. 9 ドイツ語のテキストでうれしかったです。中世は最高ということが分かりました。

A. 9 中世でドイツ語ということになれば、エックハルトの *Mittelhochdeutsch* のテキストを紹介しなければなりませんね。私の講義（西洋中世哲学史）で不十分なところは多々あるのですが、  
20 中でも、通常、神秘主義に分類される思想に触れられないのは残念ですから（準備ができれば、紹介したいと思います）。

Q. 10 話の脱線面白いです。夜ちゃんと眠らないと眠いですね...

A. 10 冒頭から脱線すると、何が本題（本線）だったか、わからなくなり、冒頭の脱線を本題と勘違いして、脱線から脱線すると、うまくいくと、本線（本題）に戻れる、という、脱線したつ  
25 もりが、本題に戻るといパラドキシカルな事態が生じるかもしれない、と思いますが、そうはうまくはいかないでしょう。脱線に、さらに、脱線する、ということになりそうです。

それと、学問的なこと以外の雑用が増えて、睡眠時間が少なくなってしまうます。

Q. 11 コメント p. 15, l. 38 の二行は、日本の学校教育に絶対と言っていいほど必要だと私も思  
30 います。フランスが初等教育から哲学を重要視しているのは歴史的なことも大きいのでしょうか、興味深いです。

A. 11 興味深いと思ったら、フランス語を学んで、直（じか）に、フランスの哲学教育に触れてみるべきでしょう。それができる環境にいるのですから。

## 西洋中世哲学史 第9回 (2019.07.09.)

Q.-2 今日回されていた本は中世英語で書かれていた文ですか？

A.-2 いいえ、現代フランス語で書かれた、フランスのリセ（高校）の哲学の教科書です。

Q.-1 マークシートの試験のためにキャッチーなワンフレーズを覚えるよりはフランスみたい  
5 にちゃんと教えたほうが理想的だろうなと思いました。

A.-1 その通りですが、高校の先生の負担と能力の問題が...

Q.0 フランス語が男性的、ドイツ語は女性的という指摘は、世間一般の評価とは大きく違っ  
ておもしろいと感じました。特に、フランス語は、アクセントの位置から「歌うような言語」と  
10 いわれていると聞きます。性差別的かもしれませんが、「歌うような言語」が「男性的」とは興味  
深いです。

ところで、日本語はその点「女性的」ではないでしょうか。細かい点はさておき、「たおやかさ」  
を追求する面があると感じます。

A.0 何をもって「女性的」とか「男性的」と言うか次第なので、この表現は使わないで、大沼  
先生のおっしゃりたいことを言い表そうとすると、「細かいニュアンスを表現するよりも、論理的  
15 道筋を通すのに向いている」のがフランス語で、「論理的道筋を通すよりも、細かいニュアンスを  
表現するのに向いている」のがドイツ語である、ということになるでしょうか。これは、それぞ  
れの利点を強調しているのです。欠点のほうを身につけてしまうと、不幸なことになるのでし  
ょう。

両者の違いのひとつは、小辞 (particle) を多用するかどうかにあります。副詞や接続詞を多用  
するかどうかと同じ問題にかかわります。この点に注目して、西洋古典文学の柳沼重剛先生は、接  
20 続語句を多用する、ギリシア語と日本語、そして、多用しないラテン語と英語、これらがそれぞ  
れ似ていると指摘しておられます。これに、先のフランス語とドイツ語を加えると、ギリシア語・  
日本語・ドイツ語、というグループと、ラテン語・英語・フランス語、というグループができる  
ような気がします。

ところで、「フランス語は、アクセントの位置から「歌うような言語」といわれていると聞か  
25 す。」と言ってないで、自分で直接学んで確かめろ！と言っておきます。

Q.1 本や論文の中でよくみられる「一般的には・・・」あるいは「一般の・・・」という記  
され方について、特に考えることもなくその内容をそのまま情報のひとつとして受け入れている  
ことが多いが、その一般とは、どの程度の範囲なのか、あるいは何を対象として一般としてい  
30 るのか、おそらく「一般＝社会全体」ばどということは毎回そうであることはないと思われるため、  
一般という語をもう少し慎重に見つめてみるべきなのかもしれないと感じた。

A.1 たしかに、おっしゃる通りで、Q.0にあるように、「世間一般」の場合は、典拠を文献で  
示すのは、その代表例をいくつか示すしかありませんが、特定のテーマについての研究論文の場合  
は、一般に、これこれと言われている（註として、某の『～』のXXページ、また、別の某の「～  
35 ～」のp. XX）のように、具体例をいくつか示しておく、多少は説得力があります。なるべく、  
「一般」という言い方を使わないほうがよいかもしれません。一般に（？えっ？）、そういうこと  
になるでしょう。（この場合、「一般に」は、副詞として、「全体として」くらいの意味です）

Q.2 ずっと英語と中国語を勉強してきたので、ドイツ語も勉強してみようかと思いました。

A.2 とてもよいことだと思います。本人のためだけでなく、人類の相互理解と世界平和の実  
現に向けて希望がもてます。が、ラテン語を学んでおくと、ドイツ語もフランス語もイタリア語  
40 もその他のヨーロッパの主な言葉の語彙と文法の元を学ぶことになるので、もっとよいでしょう。  
因（ちな）みに、英語の学問用語・抽象的な概念を表す語の70パーセントは、主にフランス語経  
由のラテン語が起源であると言われていいますから、ラテン語を学ぶと英語の語彙もフランス語の  
語彙もドイツ語の語彙も増えますよ。例えば、英語を読んでいるとき、はじめて出会った単語な  
のに、辞書を引かなくても大体意味がわかるようになります。

Q. 3 必然性の話になって、少し難しいなと思っているので、プリントをしっかりと読んで復習しようと思いました。

Q. 3' 今日の授業で前回の授業であいまいにしか分からなかった必然性の区別について、必然性の源が人間の思考か現実世界かという区別だということが分かりました。

5 Q. 3" どんどん結論をさかのぼって必然性のはじまりを探すというのが、どこことなく、生命の始まりを探すことに似ているなと思いました。どこかに始まりが存在するはずなのに、誰もその始まりを知らないし、分からないというのは面白いと感じます。

A. 3, 3', 3" わかりにくかったのは、私の説明不足で申し訳ありません。

10 何かひとつでも、授業を受けるまでには気づいていなかった考え方に気づくとか、あるいは、逆に、それまで疑問に思っていなかったことを疑問に思うようになったとすれば、講義を受けた意味があるので、授業の担当者としてはうれしく思います。

始元（始原，始源，始まり）があるかないかもわからないので、さかのぼれるところまで行ってみよう，という感じですね。

Q. 4 前提命題の正しさを論証する必要はないということなのですか。

15 A. 4 そういうことではなくて、前提命題には、それが正しいことを別の論証によって証明できるものと、できないものがある、ということです。そうすると、後者は、どうやって知られるか、が次の課題になります。アリストテレスの場合、それは、演繹（エパゴーゲー）によるか、知性・理性（ヌース）の直観によるか、という可能性が示されているのですが、問題としては残されています。

20 Q. 5 p. 28, l. 1045 無限進行（遡及）によれば「結論の端的な必然性」の「 $\therefore$  AaC」には降りてこないのでしょうか？

25 A. 5 質問の意図がわからないのですが、「結論の端的な必然性」というのは、論証によらないで、'AaC' なら、'AaC' という命題だけで、それを現実・事実と対照することで、「真」であることが「必然的に」わかる場合の「非必然性」です。それに対して、論証（三段論法）の前提命題の「真」であることの論証をもとめて、無限進行（遡及）すれば、先立つ論証の「必然性」は、後続する論証の「必然性」を保証する（降りてくる？）ことになります。

Q. 6 何となくどういう話かはわかるんですが、理解できているわけではないのでレポートが心配です... がんばります。

30 A. 6 自分がわかる範囲やテーマでレポートを書いてもらって結構ですので、心配は無用です。第4回（2019.6.20. 木）の Q. 10 と A. 10 を参照。

Q. 7 自体的に、自体性という言葉が少し理解しにくかった。

Q. 7' アリストテレスは古代の人なのに、中世、近現代の哲学にまで影響を及ぼしていてすごいと思いました。

35 A. 7 これこそ、すぐにわかるとすれば、天才じゃないかという、アリストテレスの使う、ことば・概念のひとつです。一応の説明はできますが、それであっているのか、その正体、全貌は、まだ... わかっていないかもしれない、と自分でも思います。ですから、授業では、不十分ながら、わかった限りで話しています。この 2400 年の間、アリストテレスは現役の哲学者であり続けている影響のひとつです。

40 Q. 8 一度読んですぐに分かって考えないこと、という部分にとっても感動しました。根気強く原典に当たっていきたいです。

A. 8 当たって下さい。

Q. 9 哲学の研究の方法って独り善がりになりませんか？

A. 9 ひとりよがりの方向が同じ連中が集まって、自分たちとは違う方向の者を排除しようとする。大学などの組織にいる人の場合は、外から見て、誰が何を専門としてやっているかが、今

では、Web 上でみてかなり分かりますから、調べてみると、レポートテーマとしても面白いと思います。具体的にいうと、哲学の専門のコースを担当する教員が何人かいる場合、それぞれの専門が、古代ギリシア哲学、中世哲学、フランス哲学、英米哲学、ドイツ哲学・・・というように、西洋哲学史の観点からみて、バランスよく配置されていれば、ひとりよがりの傾向は少ないと思

5 います。それに対して、先生の専門がみんなドイツ哲学になっていたら、それは、かなりの程度で、ひとりよがり集団が形成されていると言ってよいでしょう。そこで学ぶ学生にとっても、その組織（大学）にとっても、また、学問としての哲学にとっても、どちらがよいかは、各自考えてみて下さい。

10 Q. 10 哲学を学んで良かったと思うことありますか？ 哲学好きだけど真剣に入り込むと苦しくなりそうです...

A. 10 私の場合、学ぼうと思って学んだ感じがあまりなくて、気がついたら、やっていたのが哲学だった、という感じです。（まだ読んでいなければ）『人文学へのいざない』を読んで下さい。ですから、学んでよかったもわるかったもなく、病気（持病？）みたいなものかもしれません。問いに対する答としては、「学んで良かったと思うこと」はありません、なるでしょうか。できればやめたい、というところですが。

15

（参考）

1. アリストテレスの『分析論後書』における論証の前提命題と、トマス・アクィナスによる解釈については、下記を参照のこと。

（2017 年版の授業用の Web サイト）

20 [https://home.hiroshima-u.ac.jp/akyah59/2017\\_an\\_med\\_sc\\_phil\\_rep.shtml](https://home.hiroshima-u.ac.jp/akyah59/2017_an_med_sc_phil_rep.shtml)

↓ 下へスクロール 「西洋中世哲学史概説(前期)」関係

参考資料：M\_4 「論証における無中項の前提命題の認識について—トマス・アクィナスのアリストテレス解釈」、京大中世哲学研究会『中世哲学研究』13(1994), pp. 32-39 : pdf ファイルへ

2. アリストテレスの「自体性」の意味と解釈については、下記の「オッカムの論証理論について」の中で詳しく扱われている。

25

<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/24539/1/1901.pdf>

「オッカムの論証理論について—アリストテレスの *καθόλου* と *καθ' αὐτὸ* の解釈をめぐる」、『哲学論叢』19(1992), pp. 1-12.

## 西洋中世哲学史 第 10 回 (2019.07.11.)

Q. 1 ザバレラの必然性の段階についてですが、これは命題と事態の一致の程度の差ということなんでしょうか。ちょっとわからなかったので教えてください。

A. 1 これは難しい問題です。一致に程度の差を認めるかどうかで話が違ってきます。しかし、アリストテレスも、そのアリストテレスを註解するザバレラも、事柄自体としては、必然性に程度の差があるとは考えていないとすると、ザバレラが指摘しているのは、論証の前提命題として、いずれも必然性を表現した命題であっても、(1)「全称性」だけを表現している命題、(2)「自体性」を表現している命題、そして、(3)「普遍性」まで表現している命題の順に、論証の前提命題としての「必然性」の度合が高くなる、ということなのだと思います。

Q. 2 先生が哲学を「学んで良かったと思うことはない」「できればやめたい」とおっしゃっていてびっくりしました。もし先生が哲学をやめたらやりたいことは何ですか？

A. 2 そのびっくり (*θαυμάζειν*, タウマゼイン) から、哲学することが始まるといいですね (とは言えないかもしれない)。やってよかった、とか、～をえるためにやる、という発想とは無縁です。気がついたらやっていた、というのは本当のところではないでしょうか。つまり、生きている、ということとほぼ同じことなのでしょう。ですから、やめたら、やりたりことと言われても、いなくなりますから、何もすることはいいでしょう。

ただ、今は時間がとれなくて全く手をつけることができていませんが、他人の書いた管弦楽曲やピアノ曲などを、チェロの合奏用に編曲したりしていて、まだ、編曲したい曲があるので、それをやるか、日本にはフルタイムのオペラ・ハウスがないので、国外にいかねばなりません、どこかの歌劇場管弦楽団のトゥッティのチェロ奏者になってオペラの上演に参加したいと思っていました。オッフエンバックが、様々な難易度のチェロ二重奏曲を書いているのですが、その一部を、もう二十年以上前に、自分でヴィオラ二重奏用に書き直したものがあって、それをいつか合奏しようと、インド哲学の根本先生に渡してあるので、その合奏もしたいです。それから、以前、英文のヴァリンズ先生のピアノと私のチェロで小品の二重奏をしたことがあるのですが、もう一度合奏したいと思っています。

Q. 3 ラテン語を学ぶモチベーションがどうしても保てません。助けて下さい。

A. 3 必修ではなくても、何故、ラテン語やギリシア語を履修できるようになっているのかを考えみて下さい。ラテン語で書かれた本を読むことを考えればどうですか。かなりの人がラテン語で本や論文を書いていますよ。そういうものを図書館で探して、読めなくても、借りてきて、自分の机に置いてみる、というのはどうでしょう。

Q. 4 真理の整合説で命題の一貫性が大事ということがわかった。

A. 4 真理の対応説 (correspondence theory of truth), 真理の整合説 (coherence theory of truth), 真理は不要説 (redundant theory of truth) の三つを、学生諸君に辞書を引いてもらいながら板書しましたが、最後の不要説が、自己言及的で、前の二つに対する破壊的・否定的な主張で好きなのですが、現実には、対応説と整合説を合わせてやっていかざるをえません。これは、いわば、真理の実用説 (pragmatic theory of truth) でしょう。

もっと、細かい話をすれば、タルスキーの真理の意味論的理論 (semantic theory of truth) (これは、当該の命題の 1 階 (order, Stufe) 上の言語) とか、ストローソンの performative theory of truth とかありますので、関心があれば調べてみて下さい。

Q. 5 命題の話で、先生が例を用いて一貫性について説明して下さったのでわかりやすかったです。

結論命題の話では、その結論の推論があり、その推論に至るまでの別の推論があるのであれば、これらの命題は果てしないのではないかと思った。

A. 5 果てしなくさかのぼる (無限遡及) 場合と、どこかで、もうそれ以上さかのぼれない命

題に行き着く場合があると考えられています。現実には、その命題がどうして成り立つのかはまだ（ひょっとすると永遠に）わからないけれども、仮に成り立つとして（仮定する）、推論するということが行なわれています（仮言推論）。

Q. 6 英語の発音、つづりに苦戦する場面が見られましたが、英語はドイツ語やラテン語、韓国語のように発音からつづりを、つづりから発音を推測できないことが度々あり、苦手です。

なんなら日本語も同音異義語が多すぎて苦手です。

レポートにそろそろ手をつけようと思います。

A. 6 とりかかってください。日本語の同音異義語のおかげで、駄洒落ができるので、ありがたいこともあります。ギリシア語の *στέφανός*（ステパノス）が、ラテン語の *Stephanus*（ステファヌス）になったのはわかるとして、フランス語では、最初は、*Estienne* と書いていたのが、エチエンヌと読まれて、*Étienne* になってしまい、英語では、*Stephen* と *Steven* の両方の綴りがあるって、どちらも、スティーヴンと読むわけですが、*Stephen* の *ph* を *ヴ* と読むのはやめてほしいけれども、日本人がどうこういう問題ではありませんね。

Q. 7 (1) 先生は休日何して過ごしますか？

15 (2) 梅雨はいつおわりますか？

(3) たとえば、中世におけるキリスト教信仰についてレポートを書いたらアウトですか？

A. 7 (1) 小人閑居して不善をなすと思いますか？ 今は、休日だけでなく、平日も、ジョージ・セル指揮の（主に）クリーヴランド管弦楽団の米コロンビア録音全集の CDs 106 枚を少しずつ聴いています。

20 (2) 梅雨がいつおわるか、わかりません。

(3) セーフです。内容によりますが、期待しています。

Q. 8 *AaB* の *a* は何を表すのでしょうか。

数学でいう  $\in$  や  $\exists$ 、であるのは分かりますが、小文字の *A* であるのは何故なのでしょう。

A. 8 *AaB* を例として導入したときに、板書して説明しましたが、聴いていませんでしたか。もう一度説明しましょうか。これは、伝統的論理学で用いられる記号の一種で、西洋哲学史を学ぶ上では、常識だと思いますが、哲学史を受講する前に、教養課程で、論理学を開講していない大学にも責任があることです。

Q. 9 資料 32 ページの 1190 行目のあたりで、日本語の文章で理解に苦しむ部分が見られたが、このような状況に陥った際、すぐに一度原典にたちかえろうと試みた結果、文章自体の訳語には特に問題がないと判断がなされ、1144 行目からの内容にうつったことで文章の解釈が可能なものへと変わっていった。なるほど、原典の必要性はこうしたスムーズな理解・解釈を支援できるころにあるのだと具体的に捉えられた。

A. 9 もちろん、訳文だけでわかるものになっていなければならないのですが、そうでない場合もあるので、可能ならば、原典にもどる、というのはそういうことなのです。

35 今回の場合は、単に、私の説明が下手なだけなのに、訳文と原典を比較してテキストを読む実例を示したと受けとってもらって、恐縮します。

Q. 10 日本語は接続詞を多用し、英語は多用しないという話に納得しました。高校のとき、英作文の問題で、*So* や *And* を使い過ぎだと言われたことがあるからです。日本語と英語の違いが分からないままここまで学んできたと思うと、恥ずかしくなります。

40 ひとりよがり集団のお話のところ、ひとりよがり集団は場合によっては暴走しかねない危険性をはらんでいると思いました。ひとりよがり集団になると、周りの声を受け入れなくなります。こうなると、その集団がある種の宗教集団のようになりかねないと考えます。ひとりよがりの在り方をよく考えなければいけないと感じました。



A. 10 接続詞をめぐる、日本語と英語の違いは、他の外国語と比較してわかることですから、無理ありません。

「ひとりよがり」の問題は、自分と異なる考え方にどう対応するか、という問題でもあり、そもそも、「ひとりよがり」は、自分が正しいと思っていて、自分と異なる考え方を認めない、とか、  
5 排除する、という症状を呈するのでやっかいです（つまり、同じ立場に立って議論ができない）。

Q. 11 前提、計論（？、命題？）が間違っても妥当な推論になるというのは印象的でした。

A. 11 論理学では、当然のことです。

Q. 12 先生の「脱線話」は大切な視点が含まれています。もっと聞きたい場合、他のどの講義に出ればよいですか？

10 A. 12 他のどの講義でも脱線していますが、ギリシア語やラテン語の文法の授業では、講義よりも脱線は少なく、尾道大学での教養科目の「論理学」では、脱線はほとんどしないようにしています（それでも、少しは脱線します）。あとは、文献を原典で読む演習の類（たぐい）ですが、これもあまり脱線はしないようにしているのですが、少し、脱線しています。

15 脱線は、用意して脱線しているわけではなくて、その場で自然にでてくるので（前回の真理の対応説、整合説なども、予定にありませんでした）、もし、あらかじめ「脱線」という授業科目を作ったら、どうすればよいのか... 脱線から脱線して、従来の脱線は一切せず、ひたすら、アリストテレスのテキストをギリシア語で読む、というのもストイックでよいかもしれません。

## 西洋中世哲学史 第 11 回 (2019.07.16.)

(アンケート, 質問への回答について)

『人文学へのいざない』を読んだことがない, という回答は, 12 名中 10 名に及びました。

最新版と他の教員のものは, Web 上で読んでもらうことにして, 書籍の初版, 第 2 版は, 私のものは, 私の授業用の Web 上でも読めますが (書籍も図書館にあるのではないかと思います), トマスやオッカムについての論文同様, 配布するほうがよいでしょうか (読んだことがない, が必ずしも, 読みたいという意味ではないとしても)。

レポート課題 (その 3) の資料 (トマス『存在者と本質について』の一部, ラテン語原典, 英語訳, フランス語訳, ドイツ語訳, および, 日本語訳の書誌情報) については, 配布してくれ, という回答と, 配布しなくてよいという回答は半々でした。まあ, 配布しなくても, すでに Web 上で読めるわけですが... 各自の印刷の環境の問題かもしれません。

Q. 1 諸々の授業において, レポートや課題のやる気がでません。まず手がつけれられません。どうしたらよいでしょう...

A. 1 そう言われて思い出すのは,

ἀρχὴ παντὸς ἔργου μέγιστον (archē pantos ergou megiston)[Plato, *Respublica*, II, 377A]

「始まりは, すべての仕事の最大のものである」(プラトン『国家』II 巻, 377A)

や

πλείον ἢ ἡμῖσι τοῦ παντὸς ἡ ἀρχή (pleion ē hēmisi tou pantos hē archē)[Aristoteles, *Ethica Nicomachea*, I, 1098b7]

「始まり全体の半分以上 (である)」(アリストテレス『ニコマコス倫理学』I 巻, 1098b7)

ですが, これらを地でいっていますね。とにかく, 始めることです。始めたら, もう仕事の半分以上はやったのと同じことだと, アリストテレスも言っていますし, 始めることが最大の仕事だ, とプラトンも言っています。

始めたら, かけた時間じゃなくて, どれだけできたかという能率・効率が大事だと, アレクサンドロスのかわかみようへい(?) さんも, スクール・オヴ・ロックで言っていました。

Q. 2 論理学とはむずかしいなと思いました。

A. 2 そう思われたら残念です。けっして難しくはありません。今の広島大学の教養的教育科目に, 論理学に相当するものがないのが, 不思議で残念です (かなり昔にはあったようですが)。

これについては, いろいろ言うべきことはあるのですが...

Q. 3 前提命題を考えることは, 科学とは異なる仕方で世界の始まりを探ることなのではないかと感じました。始まりが分かってしまったら, 世界が虚しく見えてしまいそうで怖いです。(私には, 前提命題を考える力はないので, こんな心配をするまでもないのですが)

A. 3 樹形図のように, 論証 (推論) の連鎖によるシステム (体系<sup>1</sup>) があるとして, その或る部分が, 特定の学問分野になっているとすれば, そのどこか或るところから, 別の或るところまでを, それぞれの学問分野が扱っているということになります。これは, すでに, トマスの『神学大全』第 1 部第 1 問題第 1 項 (Thomas Aquinas, *Summa Theologiae*, I, q. 1, a. 1) で見たように, 光学が幾何学 (数学) から, 前提命題を受け取って使っている, という関係ですね。自分が専門にしている分野は, 他の分野とどういう関係にあるのか考えてみることも必要でしょう。

<sup>1</sup>三段論法 (シュロギスモス) の連鎖なので, シロギスモス体系という。

## 西洋中世哲学史 第 12 回 (2019.07.18.)

Q. 1 ボルツァーノの導出可能性, という部分の議論は, 三段論法の何かに対して批判しようとしているのを感じ取れました, それが何なのか, 分かりませんでした.

Q. 1' なぜ, 偽の前提命題を用いて結論命題を出すことがあるのですか? 意味あるのでしょうか.

A. 1, 1' 大いに意味があります. Q. 1 と Q. 1' は, よい質問です.

意図して偽である前提命題を使う場合は, 論敵を論駁するために議論するときです. 現実にもそういう場合があるので, 古代から中世にも (たぶん, いつの時代にも) 行なわれているので, 自分が相手に論駁されないようにするために, この種の議論 (「争論 (エリステイコイ・ロゴイ)」と言われる) を分析して研究するジャンルがあります (アリストテレスの『詭弁論駁論 (*De sophistici elenchi*)』).

他方, 意図していなくても, 前提命題が偽であることに気づかずに, 推論の前提として使用してしまったことに後から気づくことがあります. その場合は, どの前提命題が偽なのかをつきとめるためにも, 前提命題が真である場合だけでなく, 偽である場合についても分析して研究しておく必要があるのです.

Q. 1'' 地動説や進化論など, 前提命題が変化することが以外 (ママ, 意外?) とあると思いました.

A. 1'' たしかに, その時代に真と見なされていた事柄が, 実は違っていた, ということが明らかになることがあるので, それまで前提としていたことが真ではなくて偽である, ということになることはありますね.

Q. 2 ライプニッツのいう「形式の力」というのが, 三段論法の妥当性をよく表していると感じました.

A. 2 その感覚はおそらく正しくて, ライプニッツが気づいているのは, (推論=三段論法の) 形式の力というのが, すなわち, 前提命題から結論命題を導出する力 (必然性) なのだろうということだと思います.

Q. 3 論理学の補足説明を見たとき中学で習った数学 A を思い出しました. 「命題とその待遇の真偽が一致する」というのは論理学でも一緒なのではないでしょうか?

A. 3 一緒です. というのも, 数学が論理学の主張を借りているからです. そういう見方をする立場は, logicism (論理主義) と言われます (ということは, そういう立場をとらない人たちもいる, ということですが). フレーゲ, ラッセル, ラムゼイ (ラムゼー) などが, この logicism の立場をとっています. 彼らの logicism は, 集合論をその主な内容とするので, いわゆる集合論のパラドックスに対処するために, ラッセルはタイプ理論による論理学を提唱した結果, 今では, 大方の承認を得ている, と言えます.

Q. 4 はっきりしていないものに真か偽か, 妥当性はあるのか, どれほどの価値があるのかを見出すのかなどの基準が難しいと思った.

A. 4 それは, 個々の学問分野で, 現在のところ, (一応, 仮に) 真と見なされている前提から, しかるべき推論の手続きを経て得られた結論が, 現実と合致していないことが明らかになったとき, 前提のどこかに, 真でないものが含まれているかもしれない, という仕方では, あらためて前提命題の内容が検討される, ということになるでしょう.

Q. 5 (私自身が) よくわかっていない単語が多いから, 話をとつかむことができないことに気づいたのでもっと勉強しようと思った.

A. 5 授業で使用する単語 (用語) の説明にもっと時間を割くべきである, 反省します.

Q. 6 (講義資料の pdf の) 印刷には不便を感じていません.

Q. 6' 印刷したらかさばってもち運ぶのが大変なこともあり、またなくしてしまうこともあるので、私は印刷物よりデータの方がいいです。

Q. 6'' レポート課題 (その 3) アドレス表示してあるので、学生自身で P.C. で確認し自分で出力すべきだと思います。先生には至れりつくせりで印刷物をもらっていると思います。

5 Q. 6''' ネットで資料等を配布してもらえると、神は使用しなくてすむことも多く、資源を大切にすることには繋がると思います。

A. 6, 6', 6'', 6''' 印刷して出力する必要があると本人が感じたとき、大学の設備を用意に使える環境にあるか、個人のプリンタを使える環境にあるかという問題なので、大学の設備は組織として対応すべきことだし、個人の環境については、社会全体の問題として政治的に対処するのが正攻法でしょうね (時間がかかりそうですが)。

Q. 7 (印刷環境について) 少し不便である。

Q. 7'' PDF などのファイルのみパソコンに持っけていても、印刷する機械が少なくなっている

15 Q. 7''' ただ、私は常に PC を持ち歩いているわけではありませし、いちいち PC の電源をつけて資料を表示して・・・という作業が億劫になることも多いです。私が面倒くさがりなのが原因かもしれませんが、紙で資料を頂くほうが勉強はしやすいです。また、翻訳などをするとき、神の資料に書き込んでいかないと考えがまとまらず、全く日本語になりませし。

A. 7, 7', 7'', 7''' 授業で使用する資料を、受講者が各自の端末で閲覧するか、紙媒体で配布するか、については、両方の要望があるかぎり、両方に対応するというのが現実的ですね。

20 昨年、私の演習の受講生で、配布された資料 (ほとんど学国語のテキスト) を全部 PDF 化して、印刷物とデータの両方で管理していた学生がいましたが、そうなる完璧ですね。

ところで (ここから、Q. & A. からの脱線 digression)、液晶のモニタで読むか、紙媒体で読むかということについて、電子辞書か、紙の辞書か、という選択は私の場合、ほとんどないのですが (というのも、私が引くような辞書はほとんど紙媒体しかないから)、文献の読解 (それも精読) に必要な学力は、理由はこれとって思いつかないのですが、紙の辞書を使っているほうがつくのではないか、と思っています。

30 旅行して出先での会話などには、反射神経がよいほうが望ましいので、そういうときには、未知の単語や表現を知るには、電子辞書が適していると思います。また、(もと東大の先生で、多くの翻訳をしている) 某先生は、すでに知っている単語の意味を確認するために電子辞書を使っていると言っていました。

しかし、これに対して、時間をかけて、構文や派生語、語源等もふくめて見渡して調べるには、やはり、紙の辞書のページ全体を眺めるほうが適しているような気がしますどう思いますか。

35 そこで、もし、実際に、ある外国語のクラスで、たとえば同じ『クラウン独和辞典』の電子辞書だけを使うグループと、紙の辞書だけを使うグループ、それに、その両方を併用するグループにわけて、一定期間、授業を受けてもらって、読解力に関して、それぞれのグループの平均学力が点数にどう反映するのか、しないのか、実験したような研究は存在しないでしょうか。知っていたら教えて下さい。

## 西洋中世哲学史 第 13 回 (2019.07.23.)

Q. 1 なぜ、神，キリスト，精霊を同一としたのか，興味が生じました。

A. 1 私も，キーボード入力をするとき，漢字変換をみのがして，「聖霊」を「精霊」のままに  
してしまうことがあるのですが，手書きのときは，さすがに，「聖霊」と書きましょう。

5 なお，「三位一体」というとき，「父」と「子」と「聖霊」はどれも「神」である，ということ  
すから，言葉に注意して下さい。

Q. 1' 三位一体説は高校の時からずっと理解に苦しんでいる。父，子，聖霊のそれぞれの意味  
を調べたい。

A. 1' 自分で納得のいくまで（いかないかもしれませんが），調べてみて下さい。ただ，この  
10 講義のはじめのほうで言及した，トマスの「知る」（＝理解する）と「信じる」の区別からいうと，  
ひよっとすると，これは，理解する対象ではなくて，信じる対象なのではないか，そして，それ  
は，知ることをあきらめ，放棄した消極的な意味ではなくて，まだ，知り得ないけれども，知る  
ことができるようになるために，信じる対象なのではないか，とも考えられます。

15 Q. 2 自分は倫理学専攻なので倫理と絡めてレポートを書こうと考えていたのですが，最近の  
講義は論理学の色合いが濃く倫理と関連付けるのはなかなか難しいなあと考えていました。頑張  
ります。

A. 2 無理に倫理に関連づけなくてもよいですよ。

20 Q. 3 書き方が違っても論理学の結論命題が同じになるというのは，記号でならなんとなく納  
得しましたが，日本語で「 $p$ ならば $q$ である」と「 $p$ でない，又は $q$ である」の結論が同じだと  
言われると違和感を感じます。

A. 3  $p \supset q$  と論理的に同じことを言っている論理式の話ですが，その異和感というのは，日  
常言語（日本語）の使用者の意図と，論理記号で表現していることのズレが原因なのかもしれま  
せん。

25 Q. 4 論理学，とても面白そうだと思いました。集中講義が家の事情で取れないのが残念です。  
来年度から教養の一つとして開講されたりしないでしょうか。

A. 4 今年受講しなくても，来年度も同じ時期に集中講義を開講するように予定していますか  
ら，受講して下さい。

Q. 5 言語についてよく学んでいないと，先生のように訳語に対する疑問ももつこともなく，新  
しい知識を得る機会が少なくなってしまうだろうなあと思いました。

30 A. 5 今は，とりあえず，大学にいて，学ぶ機会があるうちに，英・独・仏・希・羅の5つくら  
いは，触れておくことを勧めます。もし，将来，これら（か，これらに近い言葉）のどれかが必要  
になったときに，わかりますよ。今のうちに，自分が原語で触れる世界を広げておいてください。

Q. 6 授業内容とはあまり関係ないが，わからない原語を見ると寂しい気持ちになるので，他  
言語を学べたら学ぼうと思った。

35 A. 6 そのさびしい気持ちを大切にしてください。それにどう対処するか，それを決めるのは，  
これを読んでいるあなたです。

Q. 7 英語の紙辞書と電子辞書の話は興味深かった。自分は電子辞書を頻用するが，英単語が  
身についている実感はなく，その場しのぎであると感じる。

40 A. 7 紙の辞書を引きながら，手書きでノートをとり，じっくり時間をかけて紙の本を読みま  
しょう。

Q. 7 勝った側の証言しか残らないという事実は，たしかにしょうがないのかもしれないが，一  
方のみ残ってしまったのは，かたよった意見に左右されると思った。

A. 7 たとえば，「三位一体」とは，これこれということである，という記述を読んだとき（あ

るいは学んだとき)、これははじめからこういう意味だったのか、別の意味で使われていた可能性はないのか、いつから、誰によって、こういう意味で使われるようになったのか、と疑い、調べてみることも必要な場合はあるのでしょうか (が、もっとも、調べるにも資料 (史料) がなくて調べられない、ということも多々あります)。

- 5 Q. 8 異端を排斥するという行為は、排斥したい側にとって不都合であるからなされるのであろうが、その不都合だとみなされうる考えや事柄は様々であるということを感じた。

Q. 8' 歴史学においても、戦争などで敗れた側の記録はほとんど残っておらず (特に古代において) たとえ敗戦した国の記録が残ったとしても、それは戦勝国のバイアスのかかったものだから、慎重に扱わなければならないので、今日の授業の公会議で排除された側の記録が残っておらず、研究するのが難しいという赤井先生の意見には共感しました。

10 A. 8, 8' 勝者や支配者、体制側にとって、なかったことにしたい不都合なことがらは、その支配体制が終わって (なくなって) みると、しばしば、真理や正しいことであった (本当のことだから都合がわるかった)、ということがあります。

それは、なにも、昔の歴史上のことだけではなくて、現代でも、そうなので、竹田篤司の『物語「京都学派」』(中公文庫, 2012, 初出は 2001 の中公叢書) の中に、次のような記述があるのを思い出します。

無能者であるトップは、自己の保身と組織防衛のために、内外の有能者を拒絶・排除し、筋を通そうとする批判者を容赦なく摘み出す。無能かつ茶坊主的人物を周囲にはべらせ、寵を垂れ、後釜に据える。そしてその人間が、また同じことを繰り返す……。 (竹田篤司, 2012, 『物語「京都学派」』, 中公文庫, p. 30.)

Q. 8'' 異端の書物が残っていないのは (異端と決めつけられた者が斬首される時代ですから) 当然のことだと思っています。書物の真 or 偽が知りたいものですね (笑)。

A. 8'' 資料が乏しく (あるいは皆無か) わからないからこそ、逆に、どうなっているのか知りたくなるわけです。

- 25 Q. 9 大変遅い時間にレポートを提出したのに、もう添削していただき本当にありがとうございます。ご迷惑をおかけしました。

A. 9 どういたしまして。メールによるレポートの提出は、時間帯を気にせず、いつでも提出して下さい。こちらの都合でメールを開いて読みますから。たまたま、深夜に研究室で仕事をしていたので、添削もできただけです。

- 30 Q. 9' この授業のレポート締切はいつですか？

A. 9' 最終レポートは、8月11日(日・山の日)のうちに届くように提出して下さい。この授業だけでなく、1学期(1ターム)の授業のレポートも同様です。

Q. 10 先日寝る前に衝撃的な本を読んでしまい、眠れなくなってしまったのですが、先生が読まれた本の中で衝撃的だったものにはどのようなものがありますか。

- 35 A. 10 知的な意味で衝撃的だったということでしょうか。「衝撃的」にもいろいろあると思うので。「衝撃的」とは違うかもしれませんが、読み始めてやめられなくて、一晩で読んでしまったら、2~3日続けてそればかり読んでしまったものはあります。

Salibi, K., 1985, *Die Bibel kam aus dem Lande Asir*, Hamburg: Rowohlt. (邦訳があります。カマール・サリービー, 1988, 『聖書アラビア起源説』, 広河隆一・矢島三枝子 (訳), 草思社)

40 船山徹, 2013, 『仏典はどう漢訳されたのか』, 岩波書店。

横井忠夫, 1971, 『誤訳悪訳の病理』, 現代ジャーナリズム出版会。

藤井一行, 2012, 『翻訳の品格「新訳」にだまされるな』, 著者自家出版会。

## 西洋中世哲学史 第 14 回 (2019.07.25.)

Q. 1 父と子は字面からでも何となく分かるのですが、聖霊はよくわからない存在だと思いました。

A. 1 三つの位格 (*persona, ὑπόστασις*) のうち、目に見えたのは (当時の) 子 (キリスト) だけで、父と聖霊はそもそも目に見えません。父は m 人間にも各自に父がいるので、それになぞらえて (いわば勝手に) イメージしてしまいうことができますが、聖霊は、たしかに、わかる人にしかわかりませんから、最もわかりにくいのでしょうか (そもそもわかるべき対象ではないと思いますが)。

Q. 2 唯一の実体である神、というのはスピノザの思想を思い出します。父、子、聖霊というのは神の現れの形の違いということなののでしょうか。子がすなわちキリストで、神が人間として現われた唯一の位格である、と考えれば、「キリストは結局人間なのか神なのか」という高校の頃の疑問が解決したように感じます。

A. 2 スピノザの *Deus sive Natura* という汎神論は、キリスト教とは (ユダヤ教とも) 異なる考え方だと思いますが、学生諸君がスピノザをどう理解しているのか、興味があります (スピノザを読みましたか?)。

15 なお、位格を、現れとして理解することは実は危険なので、現れということを強調しないほうがよいのですが...

Q. 3 スブスタチアとヒュポスタシスが単語の由来はとても似ているのに扱いが違ったことが印象的でした。

A. 3 これは、授業で扱うように、キリスト教とは別に、*οὐσία* と *ὑπόστασις* が、プロティノスの影響でどう扱われていたかと、ネストリウス派の *πρόσωπον* の使われ方が関係しています。

Q. 4 トマスがラテン語の *substantia* という言い方は正しいとは言えないと言っているように当時の人はラテン語よりもギリシア語のほうを重視していたのですか?

A. 4 いや、ギリシア語がもとである (『新約聖書』は、コイナーと呼ばれるギリシア語で書かれている) ことはわかっていましたが、トマスをはじめ、誰もがギリシア語を読めたわけではないので (単語レベルでの知識はあったようです)、ギリシア語が大切だと思っははあしあた g、わかっははあしあた r たわけではないようです (ですから、トマスも、ギリシア語がわかる人にラテン語に訳してもらっていました)。

Q. 5 ヒュポスタシスとペルソナが対応する言葉として採用されたというのは非常に興味深いです。

30 その言葉が示す概念の範囲は言語によって異なるが、その文法と語彙の意味を以て他言語の概念をあらわす作業は実はすごく難しいことであると思う。

A. 5 これから、少し垣間みるように、非常に微妙な問題にかかわっていることがわかると思います。

Q. 6 キリスト教における神は、父・子・聖霊の要素は三つの *ὑπόστασις* なりといっ、カトリック的にどれが欠けてもならない用法であることがわかった。

A. 6 はい、そういわれています。

Q. 7 神学についての本を借りてみました。レポート頑張ります。

「三位一体」とはどういうことかがどんどん分からなくなります...

A. 7 レポートは、自分の思うように書いてみて下さい。「三位一体」がわからなくなるのは、それが「三位一体」の謎であり、この授業のねらいだったのかもしれない。別の言い方をすれば、学問の醍醐味です。ん?

Q. 8 訳す方も、わざと時代を感じれるように古い言い回しを使うんだと思いました。レポートは遅れないように頑張ります。

A. 8 高桑純夫さんの訳は、ちょっとやりすぎだと思うので、私たちは、私たちの時代の日本語に訳して理解すればよいと思います。

Q. 9 ラテン語だと、神=substantia (実体)、父・子・聖霊=persona (位格) で、ギリシア語だと、神=οὐσία, 父・子・聖霊=ὑπόστασις ということだけど、ニュッサのグレゴリウスはこれらがすべて同一だと言っているのでしょうか。ではわざわざ分けている意味は何なのでしょう。

A. 9 実際に、わかる人に現われるときには (あるいは聖書の記述では)、子 (キリスト) としてだったり、聖霊としてだったりするからで、父・子・聖霊ということは否定のしようがないわけです。しかし、どの位格として現われても、同じ神であるということを強調しているのでしょうか。

Q. 10 ユダヤ系の哲学者たちを知っていくと、「シオニズム」の影響を受けていることが多いのですが、「シオン」に「シオンの娘」の存在もあることは興味深いです。

ユダヤ人が散らばっていった各地に「シオンの娘」という心の寄りどころを創り出したのでしょうか。

A. 10 「シオンの娘」という表現は、新共同訳では「娘シオン」となっていて、たとえば、『ミカ書』4章8節、『イザヤ書』37章22節、『ゼカリヤ書』9章9節などに出てきます (他にも、「エルサレムの娘」という表現も)。七十人訳のギリシア語では、θυγάτηρ Σιων, ウルガタ訳のラテン語では, filia Sion となっていて、解釈の入り込む余地が大いにあります。

実際、従来は、ユダヤ教でもキリスト教でも「～の娘」という部分を比喩的に解釈してきたわけですが、K. サリービーの説が正しいとすると、現在のイスラエルにあるのは、比喩ではなくて、本当に「シオンの娘」であって、もとの「シオン」ではないことになり、現在の「イスラエルのユダヤ人は、間違ったところに住んでいる」<sup>2</sup>のかもしれないことになってしまい、これはただごとではないわけです。

Q. 11 神の存在がわかる機械のようなものを開発してみるという話がおもしろかった。「ここに神がいる」などと言われたら悪いことはできないだろうと思う。しかし、これを悪用する人も出てきそうだなとも思う。

A. 11 そうですね (もっとも、全能の神なら、どこにいても全部お見通しでしょうが)。実際に、使われているのは、神ではなくて、霊現象を感知する、という称する装置なのですが、物理的に何を感知するように設計されているのか、電磁波とかでしょうか。靈感がある人に来てもらうほうが手っ取り早いとも思いますが...

Q. 12 「誤訳・悪訳の病理」(ママ<sup>3</sup>) という題に惹かれるので読んでみたいと思います。

A. 12 『誤訳・悪訳の病理』は、誤訳の摘発だけでなく、(当時の) 既存の辞書の不備の指摘や、ではどうすればよいのか、どういう日本語表現が可能か、などの提案もしているので、前向きに役立つ本であると思います。ぜひ読んでほしい本です。出版元をかえて、再刊もされているはずで、図書館にも何冊かあるはずです。できれば、一家に一冊常備してほしいくらいです。

35 以前の Q. & A. と、最終回の Q. & A. は、以下の URL で読んで下さい。

[https://home.hiroshima-u.ac.jp/akyah59/lectures\\_index.shtml](https://home.hiroshima-u.ac.jp/akyah59/lectures_index.shtml)

<sup>2</sup>カマー・サリービー, 1988, 『聖書アラビア起源説』, 広河隆一・矢島三枝子 (訳), 草思社, p. 2. 『サンデータイムズ』紙, 1984年8月12日付けからの引用。

<sup>3</sup>これは書名なので『誤訳・悪訳の病理』と書きましょう。



## 西洋中世哲学史 第 15 回 (2019.07.30.)

Q.1 日本は宗教が深く生活と結びついている人は、日本の全人口に対して比較的少ないと思うので、思想を理解するのは困難であると思うが、その代わり色々な宗教を客観的に比較して研究したりするのに長けている場所だと思う。

- 5 A.1 なるほど、確かに、そうですね。しかし、その一方で、西洋中世のトマス・アクィナスをラテン語の原典で読む演習に出席しておられた、某神主さんのように、宗教上の自分の立場をもちながら、それを学問的には、一旦、おいておいて、研究対象を原典で読むという姿勢も、実は、有効なのではないかと思います。それは、特定の宗教上の立場にある人だから、他の宗教に対しては批判的だろうと決めてかかるのは必ずしもあたらない、ということです。そして、それ  
10 は同時に、特定の宗教上の立場にない人のほうが、色々な宗教を客観的に比較して研究できるとも限らないということでもあります。

Q.2 前回、授業にでられなくてすいませんでした。

今日のお話を聞いて、聖書にも興味が湧いたので、少し調べてみようかと思っています。

1 タームの古代哲学史から約4ヶ月間、ありがとうございました。

- 15 A.2 どういたしまして。何か調べてみたいとか、勉強してみようと思うことに出会えたのなら、うれしく思います。

Q.3 ほとんどの人は神を感じることはできないのに、自分の宗教は正しく、相手は間違っていると確信できたのは少し不思議です。

- A.3 信仰や宗教のことにかぎらず、建前としては、自分が正しいという前提がないと、自分の  
20 属する社会・集団の中では生きづらいからではないでしょうか。育った環境にもよりますが、もし、そういうことがなければ(社会・集団の束縛から解放されれば)、自分の感じ方や自分の考えに正直になれるのではないかと思います。

Q.4 前期の授業、ありがとうございました。

哲学史の授業ではありましたが、哲学以外の話もたくさん聞けておもしろかったです。

- 25 先生の話を知っていると、「これは何なんだろう」という疑問を突きつめていくと、すべて哲学に通じるのかな、と思うようになりました。

後期も機会があればまたよろしくお願いします。

A.4 哲学史以外の話題のほうが多かったかもしれず、申し訳ありませんでした。

- 30 「これは何なんだろう」という疑問を突きつめていく、という件(くだり)から、思い出すのは、カンギレム(Canguilhem, フランスの哲学者)の弟子のドミニック・ルクールが、カンギレムの授業・演習を振り返って、次のように言っていたことです。

「これはどこから来たのだ」という問いが執拗に繰り返され、お陰で、われわれはしばしば一つの段落で何時間も立ち往生した。(ドミニック・ルクール, 2011, 『カンギレム—生を問う哲学者の全貌』, 沢崎壮宏/竹中利彦/三宅岳史(訳), 文庫クセジュ, 白水社, p.123)

- 35 Q.5 プロティノスの一者からの流出という思想が結構気に入りました。人間知性がどこから来たのか、という問いに対して、一者からの流出、とするのはおもしろいと思います。検証が不可能な理論というのが「信じる」ということに関わりがある気がして、これをつきつめれば信仰とは何なのか、というものも分かりそうだな、とさえ思いました。

A.5 ギリシア語を学んで、プロティノスを読みましょう。

- 40 Q.6 赤井先生が学生だった頃、授業が板書をほとんどかかない授業だということを聞いて、自分も90分間授業内容を聞いてひたすらノートに書く授業を受けて大変だったことを思い出しました。

A. 6 音声だけをきいて、ノートをとる能力を訓練することを目的とする授業があってもよいのではないかと... ディクテーションの授業のようですね。

Q. 7 『聖書』周りの考古学はいろいろ面白そうだと思います。

A. 7 面白いですが、こわくもあります。

5 Q. 8 雑談いっぱいでもいつもおもしろかったです。ありがとうございました。

A. 8 どうもすみませんでした。

Q. 9 この授業の内容が全てわかったわけではないですが、興味をもった分野とか本は今後の学んだり読んだりしようと思います。

A. 9 そうしてもらえればうれしく思います。

10 Q. 10 「シオンの娘」という表現が色々な解釈の可能性があり、そのような語に出会ってしまった時により正しい解釈ができるようになりたい。

A. 10 なってください。出会ってしまった、というべきか、会うことができた、というべきか、同じく「出会った」という事実についても、価値判断が加わると言い方がかわってきますね。三位一体の表現にしても、*οὐσία* – *substantia*, *ὑπόστασις* – *persona* という組み合わせを見ても、ギリシア語とラテン語の語義を知らなければ、何も疑問をもたないままでしょうから。もちろん、疑問をもたない人のほうが幸せかもしれませんが。

しかし、これは、あちこちでしばしば引用して紹介している（最近では、西洋古代哲学史の Q. & A.）、ニーチェの言葉ですが、ニーチェもそういう人を見て、思わず、言ってしまった（書いてしまった）のではないのでしょうか。

20 Ich sehe durchaus nicht ab, wie Einer es wieder gut machen kann, der versäumt hat, zur rechten Zeit in eine gute Schule zu gehen. Ein solcher kennt sich nicht; er geht durchs Leben, ohne gehen gelernt zu haben; der schlaffe Muskel verrät<sup>4</sup> sich bei jedem Schritt noch. [Nietzsche, *Der Wille zur Macht*, Kröner, 912; Schlechta, III, S. 722; KSA 13, S. 346.]

私は、適当な時期にすぐれた鍛錬を怠った者が、ふたたびそのつぐないをしようとは、決して考えない。そうした者は、おのれを知ることなく、歩行を習得しておかないままで生涯を歩みだるのである。その弛緩した筋肉が一步をあゆむことにやはりこのことをうかがいしらせる。(原佑訳)

30 私たちの場合について言えば、少しでも早いうちに、せっかく開講されている授業を勉強する機会として利用して、論理学、それから、ギリシア語、ラテン語、フランス語の文法を一通り学ぶとともに、初級文法が終わったら、実際のテキスト（原典）を読む訓練を在学中に受けておくことが必要です。そうしないと、どういうことになるかは、ニーチェに言われなくても、そういうなれの果てを見れば明らかです。

Q. 11 今日の授業の最初の講義を聞き、板書を写していて思ったのですが...

35 初歩ながら、ギリシア語を学んでいて良かったと。まず、つづりがスラスラと書けるし、単語の意味しても、その雰囲気にしてもスーッと頭の中に入れていく気がしました。

先生が英・独・仏・希・羅を大学では触れておくべきだと言われたのが納得しました。

今からでもやってみようと思っています。ありがとうございました。

40 A. 11 自分の興味関心や必要に応じて、イタリア語やスペイン語、それにヘブル語（ヘブライ語）やアラブ語（アラビア語）、また、たとえば、ドイツ語にしても、新高ドイツ語だけでなく、中高ドイツ語もやってください（エックハルトを読めます）。

晩年のベルクソンが、「七十歳に近い高齢でわざわざ原文を読むために病中にもかかわらず<sup>5</sup>」

<sup>4</sup>=verrät. ニーチェ当時の綴り。

<sup>5</sup>九鬼周造, 1991, 『九鬼周造随筆集』, 菅野昭正 (編), 岩波文庫, p. 129.

スペインの神秘主義者聖テレサを研究する必要上から、スペイン語を学んでいたことを、ベルクソンを訪問した九鬼周造が報告しています。

さて、これも、これまでに、あっちこちで、しばしば引用してきたので、またか、という人もいるかもしれませんが、プラトンが次のようなことをソクラテスに言わせています。みなさんは、どう思いますか。ここで「生まれ」と言われているのは、もって生まれた才能もさることながら、先のニーチェの言葉にもあったように、しかるべきときにしかるべきことを学んで訓練を受けている、という意味で、「育ち」と理解してもよいでしょう。耳の痛い人<sup>6</sup>もいるのではないかと思います...

10 Τὸ γοῦν νῦν ἀμάρτημα, ἦν δ' ἐγώ, καὶ ἡ ἀτιμία φιλοσοφία διὰ ταῦτα προσπέπτωκεν, ὃ καὶ πρότερον εἶπομεν, ὅτι οὐ κατ' ἀξίαν αὐτῆς ἀπτονται· οὐ γὰρ νόθους ἔδει ἀπτεσθαι, ἀλλὰ γνησίους. [Plato, *Respublica*, VII, 535C5-8]

15 「少なくとも、現在行なわれている間違いと、哲学にふりかかっている軽蔑とは、こうしたところから起こっているのだからね」とぼくは言った、「つまり、前にも言ったように、その資格もないような人々が哲学に手をつけているからなのだ。というのは、生まれのいかがわしい者たちがこれに手をつけてはならなかったのであって、正しい生まれの者たちにだけそれが許されるはずだったのだから」(プラトン『国家』7巻, 535C5-8, 藤澤令夫訳)

でも、そういう手合いは、こう言われても、俺のことか、と気がつかないものです。

<sup>6</sup>もともと、そういう人は、プラトンのテキストを原典で読んだことがない、というか、読む学力がないので、プラトンにこんなことを言われていることも知らないかもしれませんが。せめて、翻訳で読んでほしいものです。